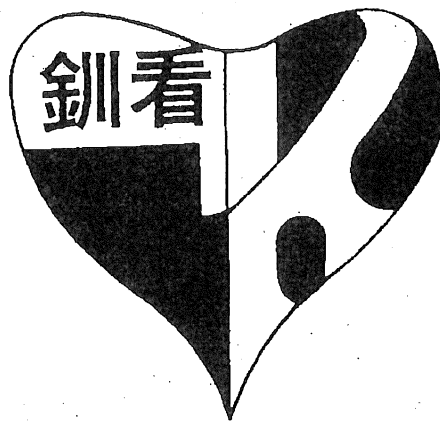


令和5年度

学生便覧



釧路市立高等看護学院

| I 学院の概要 | ページ |
|---|-----|
| 1. 設置基準 | 1 |
| 2. 沿 革 | 2 |
| 3. 校 歌 | 3 |
| 4. 学院教育目的・目標・学年到達目標 | 4 |
| 5. 主要概念 | 8 |
| 6. カリキュラムツリー | 9 |
| 7. 看護教育課程の構造図 | 10 |
| | |
| II 学 則 | |
| 1. 学 則 | 11 |
| 2. 学則の施行に関する細則 | 18 |
| 3. 条 例 | 28 |
| 4. 実習計画 | 30 |
| 5. 本学院の倫理についての考え方 | 31 |
| | |
| III 学生心得 | |
| 1. 学生心得 | 32 |
| 2. 看護職員養成修学資金あらし | 34 |
| 3. 入学前の既修得単位の認定について | 37 |
| 4. 健康管理規程 | 38 |
| 5. 図書管理規程 | 40 |
| 6. 車両通学規則 | 41 |
| 7. 学院共用パソコン・タブレットパソコン並びに無線 LAN (Wi-Fi) 利用規則 | 42 |
| 8. 届出様式 | 44 |
| | |
| IV その他 | |
| 1. 学院内配置図 | 49 |

〔 校章図案説明 〕

外形は、ハートのカタチを図案化したもので、全体として「慈愛」「責任」「奉仕」及び「学問」等のイメージを表現する。

左側上部に釧路市立高等看護学院の略称として「釧看」の文字を入れ、右側にイニシャル「K」を配置する。

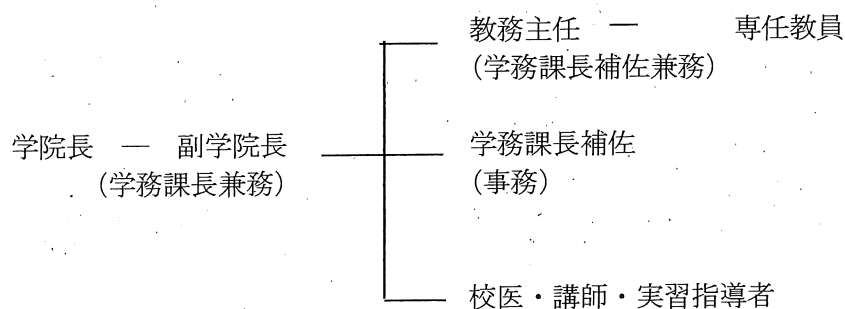
地色は紺色とし、文字と「K」はメタリック、輪郭その他は白とする。

設 置 基 準

- 1) 設置主体 釧路市
- 2) 名 称 釧路市立高等看護学院
- 3) 所 在 地 釧路市春湖台1番18号
- 4) 学 則
- (1) 入学資格 学校教育法第90条に該当する者
 - (2) 修業年限 3年
 - (3) 定 員 1学年30名(総数90名)
 - (4) 学 年 4月1日～翌年3月31日
 - (5) 学 期 2期 前期 4月1日～ 9月30日
後期 10月1日～翌年3月31日
 - (6) 休 業 日 ①土曜日 日曜日
②国民の祝日に関する法律に規定する休日
③学院記念日(5月1日)
④春季休業日(3週間)
⑤夏季休業日(4週間)
⑥冬季休業日(4週間)
⑦その他、特に休業日とすることが必要であると認める日
 - (7) 授業時間 1講 — 45分(1時間)
1日 — 8講以内
1週 — 30時間以内

| | | | | |
|-----|-------|---|-----|-------|
| 始 業 | 9:00 | ～ | 終 業 | 17:00 |
| 1 講 | 9:00 | ～ | | 9:45 |
| 2 講 | 9:55 | ～ | | 10:40 |
| 3 講 | 10:50 | ～ | | 11:35 |
| 4 講 | 11:45 | ～ | | 12:30 |
| 5 講 | 13:30 | ～ | | 14:15 |
| 6 講 | 14:25 | ～ | | 15:10 |
| 7 講 | 15:20 | ～ | | 16:05 |
| 8 講 | 16:15 | ～ | | 17:00 |

(8) 学院運営組織図



沿革

— 沿革と概要 —

- 昭和 11 年 4 月 市立釧路病院附属看護婦養成所開設 (卒業生 13 名)
- 昭和 13 年 5 月 市立釧路病院附属乙種看護婦養成所開設
所在地 釧路市幣舞町 10 番地 養成所所長 滝本庄蔵
- 昭和 26 年 11 月 市立釧路病院火災で校舎焼失、生徒は分院で学ぶ (本院 大町 4 丁目付近第一分院 富士見 3 丁目現富士見交番裏 第二分院 北大通り 5 丁目)
- 昭和 28 年 3 月 市立釧路病院附属乙種看護婦養成所閉所
- 昭和 28 年 4 月 市立釧路病院附属准看護婦養成所開設 第 1 期生 19 名入所
養成所所長 玉真俊雄 教務主任 菅原ゆき
- 昭和 43 年 3 月 24 日 保健婦助産婦看護婦法第 28 条第 2 項の規定による看護婦養成所として指定される
- 昭和 43 年 4 月 釧路市立高等看護学院看護婦 2 年課程開設 (定員 30 名)
第 1 期生 21 名入学
所在地 釧路市幣舞町 10 番地 市立釧路総合病院 B 棟に併設
学院長 本田迪康 副学院長 広瀬正雄
事務長 名畑正二 教務主任 高橋京子 (鍵本)
- 昭和 43 年 11 月 釧路市立高等看護学院 2 年課程 (各種学校) 認可される。(学校教育法第 83 条第 3 項の規定)
- 昭和 59 年 3 月 市立釧路総合病院附属准看護婦養成所閉所 (卒業総数 571 名)
- 昭和 59 年 9 月 釧路市春湖台 1 番 18 号に校舎新築移転
- 昭和 60 年 1 月 3 年課程認可 (昭和 60 年 1 月 26 日)
- 昭和 60 年 4 月 釧路市立高等看護学院看護婦 3 年課程開設 (各種学校 定員 30 名)
第 1 期生 30 名入学
学院長 本田迪康 副学院長 渡辺正二
事務長 佐藤 宏 教務主任 鍵本京子
※組織改革 市役所市民部健康管理課高等看護学院となる (予防係の一施設として位置付け) (それまでは市立病院看護課)
- 昭和 62 年 3 月 看護婦養成 2 年課程第 18 期生 28 名の卒業を以て閉科 (2 年課程指定取り消し 卒業総数 407 名)
- 昭和 63 年 4 月 第 2 代学院長 伊藤勇市就任
- 平成 2 年 4 月 カリキュラム改正 (平成 2 年 4 月入学 第 6 期生から実施)
第 3 代学院長 川村幸次郎就任
- 平成 3 年 4 月 第 4 代学院長 谷藤順士就任
- 平成 7 年 2 月 学校教育法第 82 条の 8 項の規定による専修学校認可 (平成 7 年 2 月 23 日)
- 平成 7 年 4 月 校歌完成 (作詞 佐藤義雄氏 作曲 鹿内 直氏) 11 期生入学式で披露する
- 平成 7 年 11 月 3 年課程 10 周年を節目として記念誌発刊
- 平成 8 年 9 月 保健婦助産婦看護婦学校養成指定規定の一部改正する省令が公布
- 平成 9 年 4 月 カリキュラム改正 (平成 9 年入学 13 期生から実施)
- 平成 9 年 8 月 カリキュラム改正に伴い 3 年計画で学内の改築開始
平成 9 年度在宅看護実習室・ゼミナール室設置
- 平成 10 年 4 月 専任教員 8 名 (厚生省指定)
※組織改革 市役所保健福祉部健康推進課高等看護学院となる
- 平成 10 年 10 月 釧路市立高等看護学院創立 30 周年記念事業実施
記念式典 (平成 10 年 10 月 31 日)
記念講演・記念誌発刊 情報科学実習室設置
- 平成 11 年 10 月 学生寮廃止し、物品庫・書庫・学生更衣室に改造
- 平成 14 年 4 月 ※組織改革 保健福祉部高等看護学院となる (課に昇格)
- 平成 15 年 4 月 第 5 代学院長 吉田豊就任
- 平成 18 年 4 月 ※組織改革 こども保健部高等看護学院課となる
- 平成 21 年 4 月 カリキュラム改正 (平成 21 年入学 25 期生から実施)
- 平成 22 年 4 月 ※組織改革 市立釧路総合病院高等看護学院課となる
- 平成 23 年 4 月 第 6 代学院長 飯塚桂司就任
- 平成 29 年 4 月 第 7 代学院長 米澤和彦就任
- 平成 31 年 4 月 第 8 代学院長 足立憲昭就任
- 令和 2 年 4 月 新校舎移転
- 令和 4 年 4 月 カリキュラム改正 (令和 4 年度入学 38 期生から実施)
- 令和 5 年 4 月 第 9 代学院長 今泉俊雄就任

釧路市立高等看護学院校歌

作詞 佐藤 義雄
作曲 鹿内 直

いた の 一 ちか なで る ミ ズ ー バ ショー
 た い へ い よ う の し タ お ー の か ー
 せ つ げ ん を ま う ー チ ョウ

ウ と の し し き つ げ ん さ ん ー か よ み ー が え
 の し き よ ら な す が ー た む ん ー に ひ

り こ め かんごを めざす ステージに たーてる ひとみに
 めぐみの おかに はぐくまれ ナー ス キャップの
 とうとき いのち ささえあう みとりの ひーびに

ひかりあ りとも に はげも う あ あ ー しゅんこだ
 ほこりも ちうけつ き ゆこ ー う
 かかるに じあす を めざそ う

い ま な び ー の そ の ー に の ち さ ぞ か ー み あ
 か か ー い あ

れれれ

三、 二、 一、

学あ明み尊清雪
 びあ日とりき原を
 のあをのいの姿を
 園春めののの姿を
 に湖めの日のの姿を
 に台そ日々のちのち
 栄えあれ
 学あ明み尊清雪
 びあ日とりき原を
 のあをののの姿を
 園春めの日の日姿を
 に湖めの日の日姿を
 に台そ日々のちのち
 栄えあれ

学あ受ナ恵四太
 びあけスみの季洋の
 のあ継スの丘を織の
 園春ぎキの丘を織の
 に湖ゆキの丘を織の
 に台こゆうの丘を織の
 誓いあれ
 学あ受ナ恵四太
 びあけスみの季洋の
 のあ継スの丘を織の
 園春ぎキの丘を織の
 に湖ゆキの丘を織の
 に台こゆうの丘を織の
 誓いあれ

学あとも立看湿いの
 びあもてる護原の
 のあにるを讚ち奏
 園励ひを歌奏で
 に湖もひとめ歌奏で
 に台もうとみめ歌奏で
 望みあれ
 学あとも立看湿いの
 びあもてる護原の
 のあにるを讚ち奏
 園励ひを歌奏で
 に湖もひとめ歌奏で
 に台もうとみめ歌奏で
 望みあれ

校 歌 1995年（平成7年）3月、3年課程10周年を記念してつくり、同年4月11日、第11期生入学式で披露した。

釧路市立高等看護学院教育目的・目標

理 念

科学的思考を基盤とした看護の実践力、保健・医療・福祉全般にわたる広い視野、豊かな人間性を備えた人材を育成する。

教育目的・目標

1. 教育目的

看護師として必要な知識及び技術を習得し、豊かな人間性と倫理観を養い、専門職業人としての自覚と責任を持ち、地域医療の充実に貢献し得る看護師を育成する。

2. 教育目標

- 1) 看護の対象である人間を多面的に把握し、統合的に理解できる能力を養う。
- 2) 人間のライフサイクルにおける健康の意義を理解し、あらゆる健康のレベルに対応できる能力を養う。
- 3) 看護の基礎的知識、技術を習得し、看護職としての基本的態度を身につける。
- 4) 保健・医療・福祉の概念を理解し、チーム医療における看護の役割と責任を果たせる能力を養う。
- 5) 専門職業人として主体的に学習を継続し、研究的態度を養う。

学年到達目標

1 学年

1. 健康的な生活習慣を確立する。
2. 問題意識をもって、ものごとを考えられる。
3. 自主的に学ぶ姿勢と感性を養う。
4. 看護概念及び基礎的看護技術を習得する。
5. 研究の基礎を学ぶ。

2 学年

1. 保健・医療・福祉を取り巻く社会状況に関心をもつことができる。
2. 医療従事者としての自覚をもち、相手の人格を尊重したかかわりができる。
3. 看護の対象を理解し、基本的な看護過程の展開ができる。
4. 看護研究を展開できる。

3 学年

1. 自己の看護観を明らかにし、看護者としての姿勢を確立する。
2. 看護の責任を果たせるよう、保健・医療・福祉の中での看護の位置づけ、役割を自覚できる。
3. 主体的に研究を継続する態度を養う。

期待される卒業生像（ディプロマポリシー）

1. 人間を尊い存在として幅広く理解する能力を身につけることができる。
2. 対象に関心を持ち、良好な人間関係を築くことができる。
3. 科学的根拠に基づき、安全安楽な看護を実践することができる。
4. 社会の変化に目を向け、地域で暮らす人々への支援を行うことができる。
5. 看護への関心を高め、探求心を持ち続けることができる。

1 学年到達目標の評価

期生 番 氏名

1. 健康的な生活習慣を確立する。

- ①毎日3食の食事をきちんと摂取できる。(10月 A B C)(3月 A B C)
- ②自分の健康に関心をもち定期的に運動を行うことができる。(10月 A B C)(3月 A B C)
- ③毎日規則的に睡眠をとることができる。(10月 A B C)(3月 A B C)
- ④提出物の期限を守ることができる。(10月 A B C)(3月 A B C)

| | A | B | C |
|---|---------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|
| ① | 自分の体調を把握し、毎日規則的に食事を摂取することができる | 週に3~4日、規則的に食事を摂取することができる | 規則的な食事がほとんど摂取できていない |
| ② | 自分の体調を把握し、毎日規則的に運動をすることができる | 週に3~4日、規則的に運動をすることができる | 規則的な運動をほとんどすることができていない |
| ③ | 自分の体調を把握し、毎日規則的に睡眠をとることができる | 週に3~4日、規則的に睡眠をとることができる | ほぼ規則的な睡眠をとることができていない |
| ④ | 提出物の期限や学内のルールを守ることができる(100~80%) | 提出物の期限や学内のルールを概ね守ることができる(79~50%) | 提出物の期限や学内のルールを守ることができないことが多い(49%以下) |

10月

3月

4. 看護概念及び基礎的看護技術を習得する。

- ①看護の定義・対象・目的・機能を述べるができる。(10月 A B C)(3月 A B C)
- ②既習の技術については、根拠を理解した上で自信をもってできる。(10月 A B C)(3月 A B C)
- ③観察力を養いながら、患者の基本的ニーズを把握できる。(10月 A B C)(3月 A B C)
- ④自分がめざす看護師像を述べるができる。(10月 A B C)(3月 A B C)

| | A | B | C |
|---|--|---|--|
| ① | 看護に関心をもち、看護の定義・対象・目的・機能を表現することができる(年度末レポート) | 看護に関心があり、看護の定義・対象・目的・機能を自信はなげ表現することができる | 看護に関心を持つことができず、看護の定義・対象・目的・機能について表現することができない |
| ② | 学習した看護技術について、根拠を理解し自信をもってできる | 学習した看護技術について概ね根拠を理解し、自信はなげ実施できる | 学習した看護技術について根拠を理解し、自信をもって行うことができない |
| ③ | S・O情報と基本的ニーズの14項目を認識して観察することができる。また、指導を受けると根拠をもってニーズを分析・解釈することができる(基礎看護学実習I-2 評価内容1, 2合計 20~18点) | S・O情報と基本的ニーズの14項目を概ね認識して観察することができる。しかし、指導を受けてもニーズの追加ができず、根拠をもって分析・解釈することが不足している(基礎看護学実習I-2 評価内容1, 2合計 17~12点) | S・O情報と基本的ニーズの14項目を認識して観察することができない。また、指導を受けても根拠をもってニーズを分析・解釈することができない(基礎看護学実習I-2 評価内容1, 2合計(11点以下)) |
| ④ | 自分の目指す看護師像を明確にし、表現することができる | 自分の目指す看護師像について関心はあるが、表現できない | 自分の目指す看護師像について関心がなく、表現できない |

10月

3月

2. 問題意識をもって物事を考えられる。

- ①学習体験を通して自己の課題を明らかにし、解決するための行動ができる。(10月 A B C)(3月 A B C)
- ②相手の意見や考えを聞き入れると共にその意見に対しての自己の意見を持つ。(10月 A B C)(3月 A B C)

| | A | B | C |
|---|---|--|---|
| ① | 自己の課題を明らかにし、問題を解決するために行動することができる | 学習体験を通して自己の課題は明らかにすることはできるが、行動化までには至らない | 自己の課題を明らかにすることができない |
| ② | グループワークなどで相手の意見や考えを聞き、自己の意見を持ち、表現することができる | グループワークなどで相手の意見や考えを聞き、自己の意見を持つことはできるが、表現するには至らない | グループワークなどで相手の意見をよく聞くことができず、自己の意見を持つことができない。 |

10月

3月

3. 自主的に学ぶ姿勢と感性を養う。

- ①学習を毎日の習慣とすることが出来、自己学習・講義の予習・復習ができる(10月 A B C)(3月 A B C)
- ②クラス全体の状況に配慮しながら進んでクラスの役割を行うことができる。(10月 A B C)(3月 A B C)
- ③自己の感性を高めるための行動ができる。(10月 A B C)(3月 A B C)

| | A | B | C |
|---|--|--------------------------------------|------------------------------|
| ① | ほぼ毎日講義の予習や復習をし、学習の習慣化ができる | 講義の予習や復習を週3~4日は行っている | 予習や復習をせず、学習の習慣化がされていない |
| ② | クラス全体の状況に配慮し、進んでクラスの役割やボランティア活動に参加することができる | 自ら進んでではないが、概ねクラスの役割やボランティア活動に参加はしている | クラスの運営やボランティア活動に自主的には参加していない |
| ③ | 感性を高める意識が高く、課外活動に積極的に参加している(アルバイト・読書や映画など) | | 物事に関心がなく、課外活動に参加していない |

10月

3月

5. 研究の基礎を学ぶ。

- ① 研究的態度を養い、研究論文の構成と研究方法の基礎について理解することができる。(3月 A B C)
- ② 文献検索とクリティークの方法を身につけることができる。(3月 A B C)

| | A | B | C |
|---|---|---|--|
| ① | 研究的態度を意識し、研究論文の構成と研究方法の基礎について理解することができる | 研究的態度を意識することができ、研究論文の構成と研究方法の基礎について概ね理解することができる | 研究的態度が意識できず、研究論文の構成と研究方法の基礎について理解することができない |
| ② | 文献検索とクリティークの方法を理解し、実際に行うことができる | 文献検索とクリティークの方法を概ね理解しているが、実際に行うことができない | 文献検索とクリティークの方法が理解できず、実際に行うことができない |

3月

全体を通しての自己評価(2学年に向けて)

今後に向けて(教員より)

2 学年到達目標の評価

期生 番 氏名

1. 保健・医療・福祉を取り巻く社会状況に関心を持つことができる。
 ①新聞などのメディアを通して現在の社会情勢について関心を持つことができる。
 (10月 A B C)(3月 A B C)
 ②保健・医療・福祉に関する現状と課題について理解することができる。
 (10月 A B C)(3月 A B C)

| | A | B | C |
|-----|--|---|---|
| ① | 社会情勢を理解するために新聞やニュースなどをほぼ毎日見ている | 新聞やニュースなどを週に3～4日程度は見ている | 新聞やニュースなど見る機会を持たず、社会情勢を捉えていない |
| ② | 講義や実習の中で保健・医療・福祉に関する現状と課題を意識し、理解するために行動化し、述べるることができる | 講義や実習の中で保健・医療・福祉に関する現状と課題を意識し、理解しようとして行動化し、概ね述べるることができる | 講義や実習の中で保健・医療・福祉に関する現状と課題を理解しようとして行動化できず、述べることができない |
| 10月 | | | |
| 3月 | | | |

2. 医療従事者としての自覚を持ち、相手の人格を尊重したかわりができる。
 ①人間関係における自己の姿勢を評価し、対人関係に活かすことができる。
 (10月 A B C)(3月 A B C)
 ②コミュニケーション技法を用いて、対象と信頼関係を築くことができる。
 (10月 A B C)(3月 A B C)
 ③守秘義務を遵守し、個人情報保護に適切にできる。
 (10月 A B C)(3月 A B C)
 ④信頼関係を築く中で、対象の思いや考えに共感できる。
 (10月 A B C)(3月 A B C)

| | A | B | C |
|---|---------------------------------------|---|---|
| ① | 自己の傾向がわかり、相手へ配慮しながら良い対人関係を作ることができる | 自己の傾向を知る努力をし、概ね良い人間関係を作ることができるが、課題も残っている | 自己の傾向を理解できず、対人関係に活かすことができず、課題が多い |
| ② | その場に応じたコミュニケーション技法を用い、信頼関係を築くように努力できる | コミュニケーション技法を用いて、概ね信頼関係を築くことができるが、課題も残っている | コミュニケーション技法をその場に応じて用いることができず、信頼関係を築くことがなかなかできない |

| | A | B | C |
|-----|---|---|--|
| ① | 10月一基礎Ⅱ評価表のアセスメント4・5の合計評価点が10～9点 | 10月一基礎Ⅱ評価表のアセスメント4・5の合計評価点が8～6点 | 10月一基礎Ⅱ評価表のアセスメント4・5の合計評価点が5点以下 |
| ② | 3月一成人・老年看護学実習評価表の対象理解4・5・6の合計評価点が15～12点 | 3月一成人・老年看護学実習評価表の対象理解4・5・6の合計評価点が11～9点 | 3月一成人・老年看護学実習評価表の対象理解4・5・6の合計評価点が8点以下 |
| ③ | 10月一基礎Ⅱ評価表の計画立案7の評価点が5点 | 10月一基礎Ⅱ評価表の計画立案7の評価点が4～3点 | 10月一基礎Ⅱ評価表の計画立案7の評価点が2点 |
| ④ | 10月一基礎Ⅱ評価表の計画立案8の評価点が5点 | 10月一基礎Ⅱ評価表の計画立案8の評価点が4～3点 | 10月一基礎Ⅱ評価表の計画立案8の評価点が2点 |
| ⑤ | 10月一基礎Ⅱ評価表の計画立案9の評価点が5点 | 10月一基礎Ⅱ評価表の計画立案9の評価点が4～3点 | 10月一基礎Ⅱ評価表の計画立案9の評価点が2点 |
| ⑥ | 10月一基礎Ⅱ評価表の実施・評価9・10・11・12の合計評価点が20～16点 | 10月一基礎Ⅱ評価表の実施・評価9・10・11・12の合計評価点が15～12点 | 10月一基礎Ⅱ評価表の実施・評価9・10・11・12の合計評価点が11点以下 |
| ⑦ | 10月一基礎Ⅱ評価表の実施・評価15・16の合計評価点が10～9点 | 10月一基礎Ⅱ評価表の実施・評価15・16の合計評価点が8～6点 | 10月一基礎Ⅱ評価表の実施・評価15・16の合計評価点が5点以下 |
| 10月 | | | |
| 3月 | | | |

| | A | B | C |
|-----|-----------------------------|---|--|
| ③ | 看護師の倫理綱領を理解し、倫理的配慮ができる | 倫理綱領を理解しており、概ね倫理的配慮ができる | 倫理綱領について理解が乏しく、倫理的配慮のできないところがある |
| ④ | 相手の考えや思いを受け入れ信頼関係を築くかわりができる | 助言を受けると時間はかかるが相手の考えや思いを受け入れ信頼関係を築くかわりができる | 助言を受けて、ようやく相手の考えや思いを受け入れるが、信頼関係を築くかわりが不足している |
| 10月 | | | |
| 3月 | | | |

3. 看護の対象を理解し、基本的な看護過程の展開ができる。
 ①対象の看護に必要な情報を収集し、記述できる。(SとO情報を患者の状況に合わせて把握し、根拠に基づいた分析や解釈ができていくか) (10月 A B C)(3月 A B C)
 ②対象の健康レベル、身体状態、精神・心理状態、社会的状態をアセスメントできる。(様々な視点から関連付け、全体像の把握ができていくか) (10月 A B C)(3月 A B C)
 ③対象の状況を判断し、問題点の優先順位を設定できる。(現在の患者の状態をとらえた問題点の選択ができていくか) (10月 A B C)(3月 A B C)
 ④対象のニーズを考慮した目標が設定できる。(期日を設定し、目標達成できるような内容になっているか) (10月 A B C)(3月 A B C)
 ⑤目標達成のための看護計画を立案できる。(対象の個性性をとらえた援助を具体的に記載できているか) (10月 A B C)(3月 A B C)
 ⑥看護計画に基づいた看護援助を提供できる。(対象の状況を把握し、安全対策を考慮した援助の工夫ができていくか) (10月 A B C)(3月 A B C)
 ⑦継続的なアセスメントに基づいた看護問題の評価、計画の修正および優先順位の変更ができる。(タイミングよく、患者の状況にあった看護計画の継続・追加・修正ができていくか) (10月 A B C)(3月 A B C)

| | A | B | C |
|---|---|--|---------------------------------------|
| ① | 10月一基礎看護学実習Ⅱ(以後基礎Ⅱ)評価表のアセスメント1・2・3の合計評価点が15～12点 | 10月一基礎Ⅱ評価表のアセスメント1・2・3の合計評価点が11～9点 | 10月一基礎Ⅱ評価表のアセスメント1・2・3の合計評価点が8点以下 |
| ② | 3月一成人・老年看護学実習評価表の対象理解1・2・3の合計評価点が15～12点 | 3月一成人・老年看護学実習評価表の対象理解1・2・3の合計評価点が11～9点 | 3月一成人・老年看護学実習評価表の対象理解1・2・3の合計評価点が8点以下 |

4. 看護研究を展開できる。
 ①研究課題を明らかにして研究計画書を記載することが出来る。(10月 A B C)
 ②文献検索を効果的に行うことができる。(10月 A B C)
 ③研究論文の記述方法を理解し実践できる。(10月 A B C)
 ④グループメンバーと協力し研究に取り組むことができる。(10月 A B C)

| | A | B | C |
|---|---|--|---|
| ① | 教員に相談しながら研究課題を明らかにし、研究計画書を記載することができる | 研究課題を明らかにし研究計画書を記載する過程において相談などがあまりできない | 研究課題を明らかにし、研究計画書を記載する方法が理解できない |
| ② | 文献検索の方法を理解し文献リストの作成を行い、効果的に活用して研究を進めることができる | 文献検索の方法は理解し、少しの助言で文献リストの作成を行い、概ね研究を進めることができる | 文献検索の方法が理解できず、助言があっても文献リストの作成を行うことができない |
| ③ | 研究論文の記述方法を理解し実践できる | 研究論文の記述方法を概ね理解し、自信はないが実践できる | 研究論文の記述方法が理解できず、実践できない |
| ④ | グループメンバーと協力し、積極的に研究に取り組むことができる | 概ねグループメンバーと協力して研究に取り組むことができる | 研究への取り組みが消極的で協力して行うことができない |

| | | | |
|----------------------|--|--|--|
| 10月 | | | |
| 全体を通しての自己評価(3学年に向けて) | | | |
| 今後に向けて(教員より) | | | |

3学年到達目標の評価

期生 番 氏名

1. 自己の看護観を明らかにし、看護者としての姿勢を確立する。

①既習の知識と看護実践を統合し、自己の看護観を述べることができる。(10月:面接 3月:レポート)

(10月 A B C)(3月 A B C)

②学習体験を通して、自己の課題を明らかにし、解決するための行動ができる。

(10月 A B C)(3月 A B C)

③看護専門職者として対象の尊厳と権利を尊重し、価値観や習慣、信念に配慮した倫理的行動ができる。

(10月 A B C)(3月 A B C)

| | A | B | C |
|---|---------------------------------------|---|----------------------------------|
| ① | 既習の知識や経験から看護観について意識し、自己の看護観を述べることができる | 看護観について意識はしているが、明確に自己の看護観を述べることができない | 看護観について意識しておらず、自己の看護観を述べることができない |
| ② | 自己の課題を明らかにし、問題を解決するために行動することができる | 学習体験を通して自己の課題は明らかにすることはできるが、行動化までには至らない | 自己の課題を明らかにできず、解決するための行動化ができない |
| ③ | 相手の状況や価値観をよく理解し、倫理的行動ができる | 相手の状況や価値観を理解するのが不十分で倫理的行動にやや欠ける | 相手の状況や価値観を理解できず、倫理的行動ができない |

10月

3月

2. 看護の責任を果たせるよう、保健・医療・福祉の中での看護の位置づけ、役割を自覚できる。

①社会の動向や保健医療福祉にかかわる社会のニーズを見極められる看護の在り方について述べることができる。

(10月 A B C)(3月 A B C)

②退院支援に関わり、保健医療福祉システムについて説明できる。

(10月 A B C)(3月 A B C)

③退院支援に関わり、保健医療福祉システムの中での看護の役割を説明できる。

(10月 A B C)(3月 A B C)

| | A | B | C |
|---|---|--|--|
| ① | 実習記録やカンファレンスなどで社会の動向や保健医療福祉にかかわる社会のニーズを捉えた看護について述べることができる | 実習記録やカンファレンスなどで社会の動向や保健医療福祉にかかわる社会のニーズを捉えた看護について十分に説明することができない | 実習記録やカンファレンスなどで社会の動向や保健医療福祉にかかわる社会のニーズを捉えた看護について述べることができない |

全体を通しての自己評価

全体を通して教員より

| | | | |
|---|---|---|--|
| ② | 実習記録やカンファレンスなどで保健医療福祉システムについて説明することができる | 実習記録やカンファレンスなどで保健医療福祉システムについて十分な説明ができない | 実習記録やカンファレンスなどで保健医療福祉システムについて説明ができない |
| ③ | 実習記録やカンファレンスなどで保健医療福祉システムの中での看護の役割を説明することができる | 実習記録やカンファレンスなどで保健医療福祉システムの中での看護の役割を十分に説明することができない | 実習記録やカンファレンスなどで保健医療福祉システムの中での看護の役割を説明することができない |

10月

3月

3. 主体的に研究を継続する態度を養う。

①看護における課題や疑問の解決に向けた文献検索と情報収集ができる。

(10月 A B C)(3月 A B C)

②研究課程の手順に沿って計画的に研究に取り込むことができる。

(10月 A B C)(3月 A B C)

③自己の研究を振り返り、研究成果を看護実践に活用する必要性について述べることができる。

(10月 A B C)(3月 A B C)

| | A | B | C |
|---|--|---|--|
| ① | 看護研究の課題や疑問に対する文献検索や情報収集を自ら効果的に行うことができる | 看護研究の課題や疑問に対する文献検索や情報収集が、教員の手助けを受け、効果的に行うことができる | 看護研究の課題や疑問に対する文献検索や情報収集が効果的に行うことができない |
| ② | 看護研究に対して、自ら計画的に概ね取り組むことができる | 看護研究に対して、教員の手助けを受け、概ね取り組むことができる | 看護研究に対して、教員に促されても計画的に取り組むことができない |
| ③ | 10月：看護研究の動機や意義が明確に述べることができる 3月：看護研究を終えて、レポートの中で研究成果を看護実践に活用する必要性について述べることができる | 10月：看護研究の動機や意義が十分に述べることができない 3月：看護研究を終えて、レポートの中で研究成果を看護実践に活用する必要性について十分に述べることができない | 10月：看護研究の動機や意義が明確ではなく、述べることができない 3月：看護研究を終えて、レポートの中で研究成果を看護実践に活用する必要性について述べることができない |

10月

3月

主 要 概 念

| | 概 念 |
|--------|--|
| 人 間 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体的、精神的、社会的に統合された存在である。 2. 人間は、自然環境及び社会環境との相互作用のなかで生活し、絶えず変化している存在である。 3. 人間は成長発達し続ける存在である。 4. 人間は、感情、理性、思考能力をもち、様々なニーズを充足しながら行動している。 5. 人間は尊厳を有する存在である。 |
| 環 境 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境とは人間を取り巻くすべてを指し、社会的環境、自然的環境、文化的環境に大きく分ける。 2. 環境は人間と相互作用し合って、人間の健康に影響を与えている。 |
| 健 康 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康とは身体的、精神的、社会的にバランスがとれている状態であり、自分の能力を最大限に発揮できる状態である。 2. 健康は個体要因と環境的要因との相互作用により成り立ち、常に流動的に変化する。 3. 健康は個別的なものであり、自らの責任によって作りだされるものであると同時に、社会システムとして保障されなければならない。 |
| 看 護 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護は人間を対象として、対象との相互関係によって成り立つ。 2. 看護は個々の健康の保持、増進、健康の回復（安らかな死）を目的とし、基本的ニーズの充足、自立（セルフケア）への援助を行う。 3. 看護は対象の健康上の問題を判断し、個別に解決していくプロセスである。 4. 看護はヒューマニズムにもとづく実践の科学であり、アートである。 5. 看護は保健、医療、福祉チームの一員としての独自の機能と役割を担うものである。 6. 看護は社会変動のニーズに対応するものである。 |
| 学 習 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習とは、学習者が主体的に経験を生かし、自己成長していく過程であり、内発的動機づけで促進されるものである。 2. 教育とは、学習者が自己成長できるよう、個人の成長、発達の潜在能力を最大限に引き出すよう、学習環境を整えることである。 3. 学習者と教育者はともに影響し合い向上する。 4. 学習者は、専門職として将来にわたって自己啓発に努める責任がある。 |

カリキュラムツリー

DP

1.人間を尊い存在として
幅広く理解する能力を身
につけることができる。

2.対象に関心を持ち、良
好な人間を築くことがで
きる。

3.科学的根拠に基づき、
安全安楽な看護を実践す
ることができる。

4.社会の変化に目を向け、
地域に暮らす人々への支
援を行うことができる。

5.看護への関心を高め、
探求心を持ち続けること
ができる。

臨地実習（総合、成人Ⅲ、母性、小児、精神、地域・在宅Ⅲ・Ⅳ）

<専門分野> 看護管理、看護実践と医療安全、災害看護と国際看護、看護研究

<専門分野> 地域・在宅看護方法論Ⅲ、精神臨床看護Ⅱ、精神看護過程

<基礎科目>
行動科学

<専門基礎分野>
社会福祉、関係法規、保健医療論

臨地実習（基礎看護学実習Ⅱ、成人老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ、地域・在宅看護実習Ⅱ）

<専門分野>

臨床看護総論 地域・在宅看護看護概論Ⅱ 成人臨床看護Ⅰ～Ⅳ 小児臨床看護Ⅰ・Ⅱ 母性看護学概論、
精神看護学概論
地域・在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱ 成人看護過程 小児看護過程 母性臨床看護Ⅰ・Ⅱ
地域・在宅看護過程 認知症の看護 母性看護過程

<基礎科目>
英語Ⅱ、情報科学、保健体育Ⅱ、教育学

<専門基礎分野>
薬理学・治療と検査

<専門基礎分野>
公衆衛生学

<専門分野>
看護研究方法論Ⅱ

臨地実習（基礎看護学実習Ⅰ-1、Ⅰ-2、地域・在宅看護実習Ⅰ）

<専門分野>

看護学概論、看護倫理、基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅳ、看護過程

<基礎科目>

哲学 社会学 コミュニケーション
心理学 英語Ⅰ 文章表現
保健体育Ⅰ 日本の文化

<専門基礎分野>
解剖生理学、生化学、病理学、栄養学、
微生物学、疾病治療論

<専門基礎分野>
健康支援

<専門分野>
看護研究方法論Ⅰ

<専門分野>

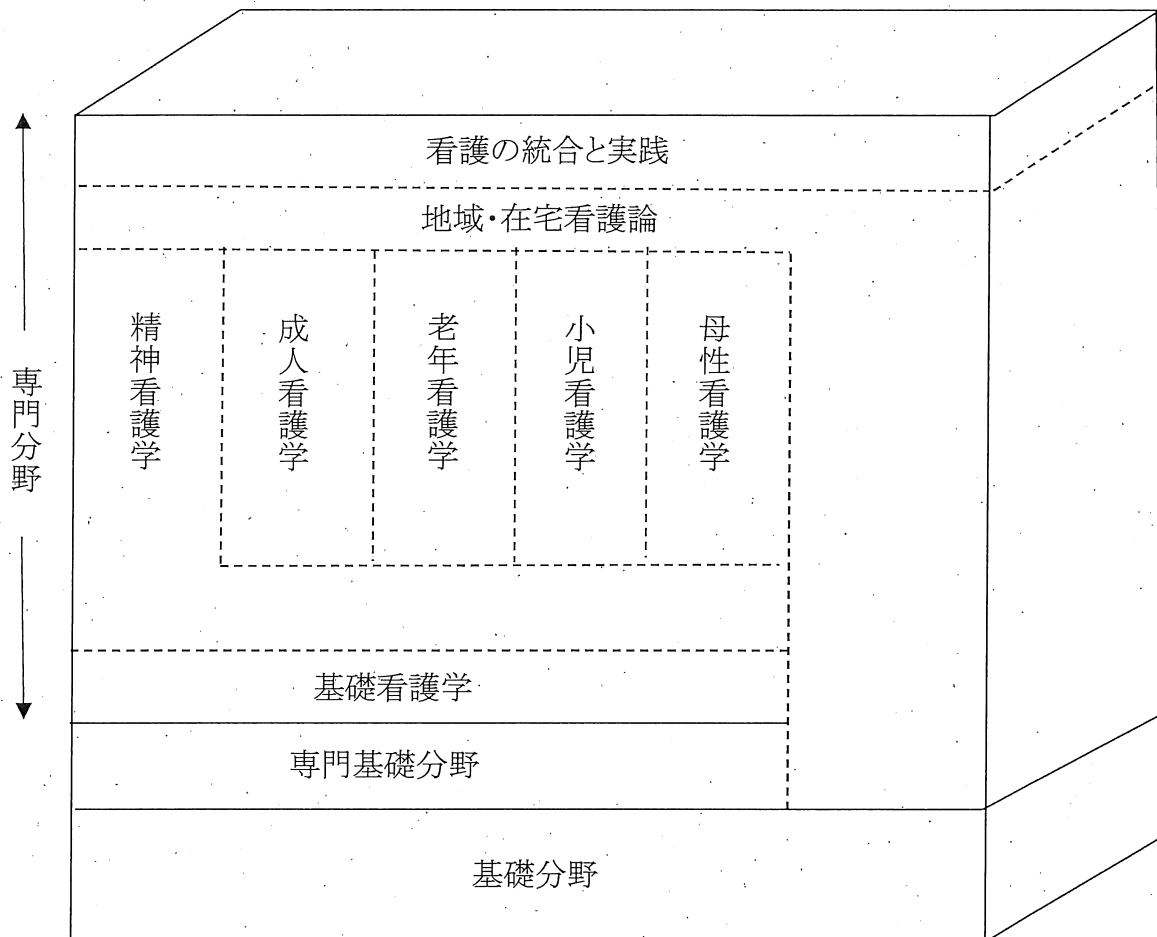
成人・老年・小児看護学概論、老年臨床看護、老年看護過程、地域・在宅看護概論Ⅰ

3年

2年

1年

看護教育課程の構造図



基礎分野は、幅広いものの見方、考え方、そして看護職に必要な人間の理解につながる分野であり、専門基礎分野、専門分野の基礎として土台に位置付けた。

専門基礎分野は、看護を学ぶ上での基礎となるため次の段階の土台と考えた。

看護学の基盤を基礎看護学とし、各看護学に共通した要素として精神看護学をおき、小児・母性・成人・老年看護学を並立させ、それぞれ関連しあっていることを表現している。地域・在宅看護論は、各看護学、更に社会支援とのかかわりも深く専門基礎分野と関係していることを表している。

上部に看護の統合と実践をおき、これまで学んできた知識・技術を統合した看護を実践することを表現している。

目次

- 第1章 総則 (第1条—第6条)
- 第2章 教育課程 (第7条)
- 第3章 入学、休学、復学及び退学 (第8条—第18条)
- 第4章 賞罰 (第19条・第20条)
- 第5章 学習評価及び卒業の認定等 (第21条・第22条)
- 第6章 受験料、入学料及び授業料 (第23条—第29条)
- 第7章 職員 (第30条)
- 第8章 雑則 (第31条—第33条)

附則

第1章 総則

(目的)

第1条 釧路市立高等看護学院 (以下「学院」という。)は、保健師助産師看護師法 (昭和23年法律第203号)の規定に基づき、看護師として必要な専門的知識及び技能を習得させるとともに、豊かな人間性を養い、医療及び公衆衛生の普及向上に寄与することを目的とする。

(名称及び位置)

第1条の2 学院の名称及び位置は、次のとおりとする。

| 名称 | 位置 |
|------------|-------------|
| 釧路市立高等看護学院 | 釧路市春湖台1番18号 |

(課程及び学科)

第2条 学院には、3年課程の看護科を置く。

(学生の定員及び修業年限)

第3条 学生の総定員は90人とし、各学年の定員は30人とする。

2 学院の修業年限は、3年とする。

(学年及び学期)

第4条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 学期を分けて、次の2期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第5条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律 (昭和23年法律第178号) に規定する休日
- (3) 学院記念日
- (4) 春季休業日 3月下旬から4月上旬までの間において引き続き3週間
- (5) 夏季休業日 7月下旬から8月下旬までの間において引き続き4週間
- (6) 冬季休業日 12月下旬から翌年1月中旬までの間において引き続き4週間
- (7) その他特に休業日とすることが必要であると認める日

2 前項第3号から第7号までに掲げる休業日の期日又は期間は、釧路市立高等看護学院長 (以下「学院長」という。)が定める。

3 学院長は、第1項の規定にかかわらず、学生の教育上特に必要があると認めるときは、休業日を授業日とすることができる。

(授業始終の時刻)

第6条 授業始終の時刻は、学院長が定める。

第2章 教育課程

(授業科目及び単位数)

第7条 授業科目及び単位数は、別表のとおりとする。ただし、学院長が必要があると認めるときは、単位数に係る時間数を増加することができる。

第3章 入学、休学、復学及び退学

(入学資格)

第8条 学院の入学資格者は、学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条の規定に該当し、かつ、入学試験に合格した者とする。

(受験手続)

第9条 入学を志願する者は、次の書類に受験料を添えて、所定の期日までに学院長に提出しなければならない。

- (1) 入学願書
- (2) 最終学校の卒業証明書又は卒業見込証明書
- (3) 最終学校調査書
- (4) 写真（出願前3か月以内に撮影した無帽、正面及び上半身の写真で名刺型のもの）

(入学試験)

第10条 入学を志願する者には、次の試験を行う。

- (1) 学力試験
- (2) 面接試験

(入学の許可)

第11条 学院長は、入学試験の合格者に対して入学の許可をする。

(入学手続)

第12条 入学を許可された者は、指定した期日までに、保証人2人が連署した誓約書を学院長に提出しなければならない。

- 2 前項の保証人は、独立の生計を営む成年者でなければならない。
- 3 学生は、第1項の保証人を変更し、又は保証人の職業若しくは住所に変更があったときは、直ちに学院長に届け出なければならない。

(転入学)

第13条 学院長は、転入学を志望する者があるときは、学生の定員に欠員のある場合に限り、学科及び実習の履修程度に応じて相当学年に転入させることができる。

- 2 第8条から前条までの規定は、前項の規定により転入学しようとする者について準用する。

(欠席の届出)

第14条 学生は、病気その他やむを得ない理由により欠席しようとするときは、速やかにその理由を学院長に届け出なければならない。この場合において、欠席が病気のため7日以上に及ぶときは、医師の診断書を添えなければならない。

(休学)

第15条 学生は、病気その他やむを得ない理由により引き続き1か月以上休学しようとするときは、保証人と連署のうえ、その旨を学院長に願い出て、その許可を受けなければならない。この場合において、休学が病気によるときは、医師の診断書を添えなければならない。

- 2 休学の期間は、1か月以上1年以内とする。ただし、学院長がやむを得ない事情があると認めるときは、更に1年間その期間を延長することができる。

(復学)

第16条 休学中の学生が復学しようとするときは、学院長に願い出て、その許可を受けなければならない。

(転学)

第17条 学生は、転学を志望するときは、保証人と連署のうえ、その旨を学院長に願い出て、その許可を受けなければならない。

(退学)

第18条 学生は、病気その他やむを得ない理由により退学しようとするときは、保証人と連署のうえ、その旨を学院長に願い出て、その許可を受けなければならない。この場合において、退学が病気によるときは、医師の診断書を添えなければならない。

第4章 賞罰

(表彰)

第19条 学院長は、成績優秀かつ素行善良であつて、他の模範となる学生を表彰することができる。

(懲戒)

第20条 学院長は、次の各号のいずれかに該当する学生を懲戒処分することができる。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由がなく出席が常でない者
- (4) 学院の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
- (5) 正当な理由がなく授業料を滞納し、督促を受けたにもかかわらず、なお納入しない者

2 懲戒処分は、訓告、停学及び退学とする。

第5章 学習評価及び卒業の認定等

(学習評価)

第21条 成績は、学科成績及び実習成績を総合して評価する。

2 成績は、1科目を100点満点とし、60点以上を合格とし、単位の取得を認める。

3 学院長は、学院に入学する前に習得した単位の認定について学生から申請を受けた場合において、その学習内容が学院における教育内容に相当すると認めるときは、前項の規定にかかわらず、別に定めるところにより、学院における単位として認定することができる。

4 学科試験の成績が合格点数に達しない者は、その科目につき再試験を受けることができる。

5 学科試験に欠席した者で学院長がその欠席理由についてやむを得ないと認めたものは、追試験を受けることができる。

(卒業の認定等)

第22条 学院長は、第3条第2項に規定する期間以上在学した者で出席日数が出席すべき日数の3分の2以上に達し、かつ、所定の単位を取得したものに對し、卒業の認定を行う。

2 学院長は、前項の規定により卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与するとともに、専門士(医療専門課程)と称することを認める。

第6章 受験料、入学料及び授業料

(受験料、入学料及び授業料)

第23条 受験料、入学料及び授業料は、釧路市立高等看護学院条例(平成17年釧路市条例第143号)の定めるところによる。

(受験料、入学料及び授業料の納期)

第24条 受験料、入学料及び授業料の納期は、次のとおりとする。

- (1) 受験料 入学の志願の際
- (2) 入学料 入学した日から10日以内
- (3) 授業料

第1期(4月から6月までの分) 4月20日から同月末日まで

第2期(7月から9月までの分) 7月20日から同月末日まで

第3期(10月から12月までの分) 10月20日から同月末日まで

第4期(1月から3月までの分) 1月20日から同月末日まで

2 前項の納期後に納付義務の生じた場合における授業料の納期は、当該納付義務の生じた日からその日の属する月の末日までとする。

(休学等の場合における授業料)

第25条 学生が月の途中で転学し、退学し、又は死亡した場合において、その月に出席した日がないときは、その月分の授業料は徴収しない。

2 休学又は停学が月のすべてにわたるときは、その月分の授業料は徴収しない。

(入学料等の減免)

第26条 市長は、大学等における修学の支援に関する法律(令和元年法律第8号)第8条第1項の規定により入学料及び授業料の減免を行うものとする。

2 市長は、前項の規定によるほか、次の各号のいずれかに該当するときは、授業料について当該各号に定める額を減免することができる。

- (1) 授業料を負担する者が地震、風水害その他の自然災害又は火災(以下「災害」という。)により死亡した場合 全額
- (2) 学生又は授業料を負担する者が災害によりその居住する住宅が全焼、全壊、流失又は埋没した場合 全額
- (3) 学生又は授業料を負担する者が災害によりその居住する住宅が半焼、半壊、半流失、半埋没又は床上浸水した場合 半額
- (4) その他市長が特に必要と認める場合 全額又は半額

(入学料等の返還)

第27条 次の各号に掲げる場合には、第29条本文の規定にかかわらず、当該各号に定める入学料又は授業料を返還する。

- (1) 第25条に規定する場合において、既にその月分の授業料が納入されているとき その月分の授業料
- (2) 前条の規定により入学料又は授業料の減免を行う場合において、既に当該減免前の額による入学料又は授業料が納入されているとき 既に納入された入学料又は授業料のうち当該減免後の入学料又は授業料の額を上回る額

(入学料等の徴収猶予)

第28条 市長は、次の各号のいずれかに該当するときは、入学料又は授業料(第3号にあつては、授業料に限る。)について当該各号に定める期間その徴収を猶予することができる。

- (1) 学生又は入学料若しくは授業料を負担する者が入学料又は授業料の減免の申請をしている場合 授業料の減免の可否の決定までの期間
- (2) 学生又は授業料を負担する者が奨学金の貸与を申請している場合 奨学金の貸与の可否の決定までの期間
- (3) 授業料を負担する者が災害、不慮の事故又は疾病等により納期限までに授業料を納入することが困難な場合 市長が定める期間

(受験料等の返還)

第29条 既に納入した受験料、入学料及び授業料は、返還しない。ただし、特に必要があると認めるときは、この限りでない。

第7章 職員

(職員)

第30条 学院に学院長、副学院長、教務主任、専任教員その他必要な職員を置く。

第8章 雑則

(健康診断)

第31条 学院長は、学生に対し、1年に2回以上健康診断を実施する。

(運営会議)

第32条 学院の運営の円滑化を図るため、運営会議を置くものとする。

(委任)

第33条 この規則の施行に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成17年10月11日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日までに、合併前の釧路市立高等看護学院学則(昭和62年釧路市規則第38号)の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、それぞれこの規則の相当規定によりなされたものとみなす。

附 則(平成19年3月30日規則第10号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月30日規則第54号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成21年3月31日規則第25号)

(施行期日)

- 1 この規則は、平成21年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の別表の規定は、この規則の施行の日(以下「施行日」という。)以後に入学する者について適用し、平成21年3月31日において在籍し、かつ、施行日以後引き続き在籍する者については、なお従前の例による。

附 則(平成21年10月22日規則第53号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成24年3月31日規則第34号)

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月31日規則第23号)

(施行期日)

- 1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の別表の規定は、この規則の施行の日(以下「施行日」という。)以後に入学する者について適用し、平成26年3月31日において在籍し、かつ、施行日以後引き続き在籍する者については、なお従前の例による。

附 則（平成29年3月31日規則第17号）

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（令和2年3月31日規則第28号）

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和4年3月31日規則第 号）

（施行期日）

1 この規則は、令和4年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 改正後の別表の規定は、この規則の施行の日（以下「施行日」という。）以後に入学する者について適用し、令和4年3月31日において在籍し、かつ、施行日以後引き続き在籍する者については、なお従前の例による。

別表（第7条関係）

授業科目及び単位数

| 教育内容 | | 授業科目 | 単位数 | 時間数 | |
|--------|-------------|---------------|-------|-----|-----|
| 基礎分野 | 科学的思考の基盤 | 哲学 | 1 | 30 | |
| | | 教育学 | 1 | 30 | |
| | 人間と生活・社会の理解 | 情報科学 | 1 | 30 | |
| | | 心理学 | 1 | 30 | |
| | | 社会学 | 2 | 30 | |
| | | 行動科学 | 1 | 30 | |
| | | 英語 I | 1 | 30 | |
| | | 英語 II | 1 | 15 | |
| | | 保健体育 I | 1 | 30 | |
| | | 保健体育 II | 1 | 15 | |
| | | 文章表現 | 1 | 30 | |
| | | コミュニケーション | 1 | 15 | |
| | | 日本の文化 | 1 | 15 | |
| | | 小計 | | 14 | 330 |
| 専門基礎分野 | 人体の構造と機能 | 解剖生理学 I | 1 | 30 | |
| | | 解剖生理学 II | 1 | 15 | |
| | | 解剖生理学 III | 1 | 15 | |
| | | 解剖生理学 IV | 1 | 15 | |
| | | 解剖生理学 V | 1 | 15 | |
| | | 解剖生理学 VI | 1 | 15 | |
| | | 生化学 | 1 | 30 | |
| | | 疾病の成り立ちと回復の促進 | 病理学 | 1 | 30 |
| | | | 微生物学 | 1 | 30 |
| | | | 薬理学 | 1 | 30 |
| | | | 栄養学 | 1 | 30 |
| | 治療と検査 | | 1 | 30 | |
| | 疾病治療論 I | | 1 | 30 | |
| | 疾病治療論 II | | 1 | 15 | |
| | 健康支援と社会保障制度 | 疾病治療論 III | 1 | 30 | |
| | | 疾病治療論 IV | 1 | 30 | |
| | | 疾病治療論 V | 1 | 30 | |
| | | 公衆衛生学 | 1 | 15 | |
| | | 健康支援 | 1 | 30 | |
| | 小計 | | 23 | 540 | |
| | 専門分野 | 基礎看護学 | 看護学概論 | 1 | 30 |
| | | | 看護倫理 | 1 | 15 |

| | | | | |
|--|----------|----------------|---|----|
| | | 看護過程 | 1 | 30 |
| | | 基礎看護学方法論 I | 1 | 30 |
| | | 基礎看護学方法論 II | 1 | 30 |
| | | 基礎看護学方法論 III | 1 | 30 |
| | | 基礎看護学方法論 IV | 1 | 30 |
| | | 基礎看護学方法論 V | 1 | 30 |
| | | 基礎看護学方法論 VI | 1 | 30 |
| | | 基礎看護学方法論 VII | 1 | 30 |
| | | 臨床看護総論 | 1 | 30 |
| | | 看護研究方法論 I | 1 | 15 |
| | | 看護研究方法論 II | 1 | 30 |
| | 地域・在宅看護論 | 地域・在宅看護概論 I | 1 | 15 |
| | | 地域・在宅看護概論 II | 1 | 30 |
| | | 地域・在宅看護過程 | 1 | 15 |
| | | 地域・在宅看護方法論 I | 1 | 15 |
| | | 地域・在宅看護方法論 II | 1 | 30 |
| | | 地域・在宅看護方法論 III | 1 | 15 |
| | 成人看護学 | 成人看護学概論 | 1 | 30 |
| | | 成人臨床看護 I | 1 | 30 |
| | | 成人臨床看護 II | 1 | 30 |
| | | 成人臨床看護 III | 1 | 30 |
| | | 成人臨床看護 IV | 1 | 30 |
| | | 成人看護過程 | 1 | 15 |
| | 老年看護学 | 老年看護学概論 | 1 | 30 |
| | | 老年臨床看護 | 1 | 30 |
| | | 老年看護過程 | 1 | 15 |
| | | 認知症の看護 | 1 | 15 |
| | 小児看護学 | 小児看護学概論 | 1 | 30 |
| | | 小児臨床看護 I | 1 | 30 |
| | | 小児臨床看護 II | 1 | 30 |
| | | 小児看護過程 | 1 | 15 |
| | 母性看護学 | 母性看護学概論 | 1 | 30 |
| | | 母性臨床看護 I | 1 | 30 |
| | | 母性臨床看護 II | 1 | 30 |
| | | 母性看護過程 | 1 | 15 |
| | 精神看護学 | 精神看護学概論 | 1 | 30 |
| | | 精神臨床看護 I | 1 | 30 |
| | | 精神臨床看護 II | 1 | 30 |
| | | 精神看護過程 | 1 | 15 |
| | 看護の統合と実践 | 看護管理 | 1 | 15 |
| | | 看護実践と医療安全 | 1 | 30 |
| | | 災害看護・国際看護 | 1 | 15 |
| | | 看護研究 | 1 | 30 |
| | 臨地実習 | | | |
| | 基礎看護学 | 基礎看護学実習 I—1 | 1 | 45 |
| | | 基礎看護学実習 I—2 | | |
| | | 基礎看護学実習 II | 2 | 90 |
| | 地域・在宅看護論 | 地域・在宅看護実習 I | 1 | 30 |
| | | 地域・在宅看護実習 II | 1 | 30 |
| | | 地域・在宅看護実習 III | 1 | 45 |
| | | 地域・在宅看護実習 IV | 2 | 90 |
| | 成人看護学 | 成人看護学実習 I | 2 | 90 |
| | | 成人看護学実習 II | 2 | 90 |
| | | 成人看護学実習 III | 2 | 90 |

| | | | | |
|----|----------|---------|------|-------|
| | 老年看護学 | 老年看護学実習 | 2 | 90 |
| | 小児看護学 | 小児看護学実習 | 2 | 90 |
| | 母性看護学 | 母性看護学実習 | 2 | 90 |
| | 精神看護学 | 精神看護学実習 | 2 | 90 |
| | 看護の統合と実践 | 総合実習 | 2 | 90 |
| | 小計 | | 6.9 | 2,190 |
| 総計 | | | 10.6 | 3,060 |

備考 単位数の計算は、次の基準による。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習（臨地実習を含む。）及び実技については、30時間から45時間までの範囲で定める時間の授業をもって1単位とする。

釧路市立高等看護学院学則施行細則

(趣旨)

第 1 条 この細則は、釧路市立高等看護学院学則（以下「学則」という。）の施行について、必要な事項を定めるものとする。

(授業始終の時刻)

第 2 条 学則第 6 条の規定により釧路市立高等看護学院長（以下「学院長」という。）が定める授業終始時刻は、次のとおりとする。

(1) 始業時刻 午前 9 時 00 分

(2) 終業時刻 午後 5 時 00 分

2 前項の規定にかかわらず、学院長が特に必要があると認めるときは、授業始終の時刻を変更することができる。

(各学年における単位数等)

第 3 条 各学年における授業科目、単位数及び時間数並びに 1 単位ごとの時間数及び授業区分は、学則別表備考に規定する基準により別表に定めるとおりとする。

(授業時間等)

第 4 条 授業時間は、1 時限につき 45 分とする。

2 前項の規定にかかわらず、学院長が特に必要と認めるときは、授業時間を変更することができる。

(授業への出席)

第 5 条 授業への出席は、30 分以上の時間の出席をもって 1 時限に出席したものとみなす。

(授業の欠席の届出)

第 6 条 学則第 14 条の規定による欠席の届出は、欠席届（第 1 号様式）により届け出なければならない。

2 やむを得ない理由により、欠席する前に前項の届出をすることができないときは、口頭又は電話により、教務に欠席する旨を連絡し、後日において前項の届出をしなければならない。

(特別の理由による欠席)

第 7 条 次の理由による欠席の日数及び時間数は、学則第 22 条第 1 項の出席すべき日数並びに学則施行細則第 17 条第 1 項及び第 18 条第 1 項の出席すべき授業時間数に含まないものとする。

(1) 天災、事故等による交通遮断

(2) 天災、事故等による居住家屋の滅失、損壊等

(3) 証人、鑑定人、参考人等としての裁判所、地方公共団体その他官公署への出頭

(4) 次条各号に定める親族の死亡

(5) その他不可抗力の理由

(忌引きによる欠席)

第 8 条 次の各号に掲げる者が死亡したときは、当該各号に定める日数の範囲内で欠席を認めるものとする。

(1) 配偶者 10 日

(2) 父母 7 日

(3) 子 7 日

(4) 祖父母 5 日

(5) 兄弟姉妹 5 日

(6) 孫 3 日

(7) 子の配偶者 3 日

(8) 曾祖父母 2 日

(9) 伯叔父母又はその配偶者 2 日

| | |
|---------------|----|
| (10) 甥、姪 | 2日 |
| (11) 配偶者の父母 | 5日 |
| (12) 配偶者の祖父母 | 3日 |
| (13) 配偶者の兄弟姉妹 | 3日 |
| (14) 配偶者の伯叔父母 | 2日 |
| (15) 配偶者の甥、姪 | 2日 |
| (16) その他の同居親族 | 2日 |

(保証人変更届出)

第9条 学則第12条第3項の規定による保証人の変更又は保証人の職業若しくは住所の変更の届出は、保証人変更届（第2号様式）により届け出なければならない。

(休学の願出)

第10条 学則第15条第1項の規定による休学の願出は、休学願（第3号様式）により願出なければならない。

(復学の願出)

第11条 学則第16条の規定による復学の願出は、復学願（第4号様式）により願出なければならない。

(転学の願出)

第12条 学則第17条の規定による転学の願出は、転学願（第5号様式）により願出なければならない。

(退学の願出)

第13条 学則第18条の規定による退学の願出は、退学願（第6号様式）により願出なければならない。

(願出の許可)

第14条 学院長は、第10条から前条までの願出を許可したときは、許可書（第7号様式）を交付するものとする。

(表彰等)

第15条 学則第19条の規定による学生の表彰は、表彰状の授与により行うものとする。

- 2 表彰を公正かつ適正に行うため、釧路市立高等看護学院学生表彰審議会（以下「表彰審議会」という。）を設置する。
- 3 表彰審議会は、学院長、副学院長、教務主任、専任教員及び学院長が委嘱する者をもって組織する。

(単位の取得)

第16条 単位の取得は、各学年の終了時において、授業科目ごとに次条又は第18条に定める評価に基づき、学院長が認定するものとする。

- 2 別表基礎分野の項に掲げる授業科目について、大学等において同等の授業科目を既に修得していると学院長が認める者については、本人からの申請（第10号様式）に基づき、当該授業科目の単位を取得したものとみなすことができる。

(学科の評価方法)

第17条 授業科目のうち授業区分が講義、演習、実技又は実験であるもの（以下「学科」という。）については、出席すべき授業時間数の3分の2以上出席し、かつ、講義終了後に行う試験（以下「学科試験」という。）の成績が合格点に達した者に対し、単位を与えるものとする。

- 2 学科試験は、各学科の講師ごとに行うものとし、1試験につき100点を満点とし、60点を合格点とする。
- 3 1学科について複数の学科試験を行ったときは、それらの平均点（1点未満の端数があるときは、小数点第2位を四捨五入する。）により評価するものとする。
- 4 疾病その他やむを得ない理由により、学科試験を受けることができなかつた者については、追試験を行うことができる。この場合においては、得点から2割を減じた点数により評価するものと

する。

- 5 前3項の規定による試験の評価の結果、合格点に達しない者については、再試験を行うことができる。
- 6 前2項に規定する試験を受けようとする者は、試験願(第8号様式)を提出しなければならない。
- 7 出席すべき授業時間数の3分の2に出席時間数が満たない者については、学院長がやむを得ない理由があると認めるときは、講義、レポートの提出等をもって補習とし、欠席した授業への出席に代えることができる。

(実習の評価方法)

- 第18条 授業科目のうち臨地実習(以下「実習」という。)については、出席すべき授業時間数の3分の2以上に出席し、評価点が合格点に達した者に対し、単位を与えるものとする。
- 2 授業科目ごとの評価は、100点を満点とし、60点を合格点とする。
 - 3 前2項の規定による評価の結果、合格点に達しない者については、評価内容を勘案したうえで再実習を行い、再評価することができる。
 - 4 出席すべき授業時間数の3分の2に出席時間数が満たない者については、再実習をすることができる。但し、学院長が認めるときは、欠席した時間の補習実習を行い、欠席した実習への出席に代えることができる。
 - 5 前2項に規定する再実習又は補習実習を受けようとする者は再実習・補習実習願(第9号様式)を提出しなければならない。

(単位未取得が生じた場合)

- 第19条 当該年度において単位未取得が生じた場合は、次年度再履修をし、出席すべき授業時間数の3分の2以上の出席をもって学科試験を受けることができる。
- 2 実習においても前項に準ずるが、基礎看護実習または専門分野の実習単位を取得しなければ、総合実習に進むことはできない。
 - 3 取得できなかった単位があるときは、当該単位を1年以内に取得しなければならない。

(卒業の認定を受けるために必要な単位)

- 第20条 卒業の認定を受けるためには、別表学年合計の項に定める単位数のすべてを取得しなければならない。

(単位の認定及び卒業の審議)

- 第21条 学院長は、当該年度の取得単位及び卒業の認定について審議するため、学院運営委員会を招集する。

(卒業の延期)

- 第22条 未取得単位数によっては本人の選択により当該年次に1年とどまることができる。又、卒業を認定しないこととした学生についても、1年限りとどまることができる。
- 2 前項の場合において、当該年度のすべての講義を受講することが望ましい。

附 則

(施行期日)

- 1 この細則は、平成9年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この細則の規定は、平成9年度以降に入学する者について適用し、平成9年3月31日において在籍し、同年4月1日以降引き続き在籍する者については、なお従前の例による。

(施行期日)

この細則は、平成12年4月1日から施行する。

この細則は、平成15年11月1日から施行する。

この細則は、平成17年7月1日から施行する。

この細則は、平成17年9月15日から施行する。

(施行期日)

1 この細則は、平成21年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の規定は、この規定の施行の日（以下「施行日」という。）以後に入学する者について適用し、平成21年3月31日において在学し、かつ、施行日以後引き続き在籍する者については、なお従前の例による。

(施行期日)

この細則は、平成24年4月1日から施行する。

この細則は、平成25年4月1日から施行する。

この細則は、令和2年11月19日から施行する。

この細則は、令和3年4月1日から施行する。

(施行期日)

1 この細則は、令和4年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の規定は、この規定の施行の日（以下「施行日」という。）以後に入学する者について適用し、令和4年3月31日において在学し、かつ、施行日以後引き続き在籍する者については、なお従前の例による。

釧路市立高等看護学院の授業科目の単位数及び時間数

| 科目 | 1 学 年 | | | | | | 2 学 年 | | | | | | 3 学 年 | | | | | | |
|-----------|--------------------------------------|-----|-----------------|------|-----|-----------------|-------|----|-----------------|------|----|-----------------|-------|------|-----------------|-----|----|-----------------|--|
| | 前 期 | | | 後 期 | | | 前 期 | | | 後 期 | | | 前 期 | | | 後 期 | | | |
| | 単位 | 時間 | 1単位ごとの時間数及び授業区分 | 単位 | 時間 | 1単位ごとの時間数及び授業区分 | 単位 | 時間 | 1単位ごとの時間数及び授業区分 | 単位 | 時間 | 1単位ごとの時間数及び授業区分 | 単位 | 時間 | 1単位ごとの時間数及び授業区分 | 単位 | 時間 | 1単位ごとの時間数及び授業区分 | |
| 基礎分野 | 哲学 | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 教育学 | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | |
| | 情報科学 | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | |
| | 心理学 | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 社会学 | | | | 2 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | |
| | 行動科学 | | | | | | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | |
| | 英語 I | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | |
| | 英語 II | | | | | | | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | | | |
| | 保健体育 I | 1 | 30 | 実技30 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 保健体育 II | | | | | | | 1 | 15 | 実技15 | | | | | | | | | |
| | 文章表現 | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | | | |
| コミュニケーション | | | | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | | | | | | | |
| 日本の文化 | | | | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | | | | | | | |
| 小計 | 4 | 120 | | 5 | 90 | | 4 | 90 | | 0 | 0 | | 1 | 30 | | 0 | 0 | | |
| 専門基礎分野 | 解剖生理学 I (導入、総論、骨筋系、脳神経系) | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 解剖生理学 II (導入、呼吸器系、循環器系) | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 解剖生理学 III (導入、血液・リンパ系、内分泌・代謝系) | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 解剖生理学 IV (導入、消化器系、腎・泌尿器系) | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 解剖生理学 V (導入、感覚器系眼・耳・皮膚、女性生殖器系) | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 解剖生理学 VI | | | | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | | | | | | |
| | 生化学 | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | |
| | 病理学 | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 微生物学 | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 薬理学 | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | |
| | 栄養学 | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | |
| | 治療と検査 | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | |
| | 疾病治療論 I (骨筋系、脳神経系) | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | |
| | 疾病治療論 II (循環器系) | | | | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | | | | | | |
| | 疾病治療論 III (呼吸器系、消化器系、腎・泌尿器系) | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | |
| | 疾病治療論 IV (血液・リンパ系、内分泌・代謝系、膠原病) | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | |
| | 疾病治療論 V (感覚器系眼・耳・皮膚、女性生殖器系、歯・口腔系) | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | |
| | 公衆衛生学 | | | | | | | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | | | |
| | 健康支援 | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | |
| | 社会福祉 | | | | | | | | | | | | 2 | 30 | 講義30 | | | | |
| 関係法規 | | | | | | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | |
| 保健医療論 | | | | | | | | | | | | 1 | 15 | 講義15 | | | | | |
| 小計 | 7 | 150 | | 9 | 240 | | 3 | 75 | | 0 | 0 | | 4 | 75 | | 0 | 0 | | |
| 専門分野 | 看護学概論 | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 看護倫理 | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 看護過程 | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 基礎看護学方法論 I (コミュニケーション、教育・指導技術) | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 基礎看護学方法論 II (ヘルスアセスメント) | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 基礎看護学方法論 III (食事・栄養、排泄) | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | | | |

| 科目 | 1 学 年 | | | | | | 2 学 年 | | | | | | 3 学 年 | | | | | | |
|---------------------------|------------------|-----|------------------|-----|------|------------------|-------|-----|------------------|------|------|------------------|-------|-----|------------------|-------|-----|------------------|------|
| | 前 期 | | | 後 期 | | | 前 期 | | | 後 期 | | | 前 期 | | | 後 期 | | | |
| | 単位 | 時間 | 1 単位ごとの時間数及び授業区分 | 単位 | 時間 | 1 単位ごとの時間数及び授業区分 | 単位 | 時間 | 1 単位ごとの時間数及び授業区分 | 単位 | 時間 | 1 単位ごとの時間数及び授業区分 | 単位 | 時間 | 1 単位ごとの時間数及び授業区分 | 単位 | 時間 | 1 単位ごとの時間数及び授業区分 | |
| 基礎看護学方法論Ⅳ (環境、活動・休息) | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基礎看護学方法論Ⅴ (清潔、衣生活) | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基礎看護学方法論Ⅵ (感染予防、安全・安楽) | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | |
| 基礎看護学方法論Ⅶ (診療の補助技術) | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | |
| 臨床看護総論 | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | |
| 看護研究方法論Ⅰ | | | | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | | | | | | | |
| 看護研究方法論Ⅱ | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | |
| 地域・在宅看護概論Ⅰ | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地域・在宅看護概論Ⅱ | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | |
| 地域・在宅看護過程 | | | | | | | | | | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | |
| 地域・在宅看護方法論Ⅰ | | | | | | | | | | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | |
| 地域・在宅看護方法論Ⅱ | | | | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | |
| 地域・在宅看護方法論Ⅲ | | | | | | | | | | | | | 1 | 15 | 講義15 | | | | |
| 成人看護学概論 | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成人臨床看護Ⅰ(慢性期) | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | |
| 成人臨床看護Ⅱ(終末期) | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | |
| 成人臨床看護Ⅲ(周術期) | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | |
| 成人臨床看護Ⅳ(急性期) | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | |
| 成人看護過程 | | | | | | | | | | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | |
| 老年看護学概論 | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | |
| 老年臨床看護 | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | |
| 老年看護過程 | | | | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | | | | | | | |
| 認知症の看護 | | | | | | | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | | | | |
| 小児看護学概論 | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | | | | |
| 小児臨床看護Ⅰ | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | |
| 小児臨床看護Ⅱ | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | |
| 小児看護過程 | | | | | | | | | | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | |
| 母性看護学概論 | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | |
| 母性臨床看護Ⅰ | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | |
| 母性臨床看護Ⅱ | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | |
| 母性看護過程 | | | | | | | | | | 1 | 15 | 講義15 | | | | | | | |
| 精神看護学概論 | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | | | | |
| 精神臨床看護Ⅰ | | | | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | | | | |
| 精神臨床看護Ⅱ | | | | | | | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | |
| 精神看護過程 | | | | | | | | | | | | | 1 | 15 | 講義15 | | | | |
| 看護管理 | | | | | | | | | | | | | 1 | 15 | 講義15 | | | | |
| 看護実践と医療安全 | | | | | | | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 | | | | |
| 災害看護・国際看護 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 15 | 講義15 |
| 看護研究 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 30 | 講義30 |
| 小計 | 10 | 270 | | 7 | 180 | | 14 | 405 | | 7 | 135 | | 5 | 105 | | 2 | 45 | | |
| 専門分野 | 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ | | 8 | 実習8 | | 37 | 実習37 | 2 | 90 | 実習90 | | | | | | | | | |
| | 地域・在宅看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ | | | | 1 | 30 | 実習30 | | | | 1 | 30 | 実習30 | 3 | 135 | 実習135 | | | |
| | 老年看護学実習 | | | | | | | | | | 4 | 180 | 実習180 | 2 | 90 | 実習90 | | | |
| | 小児看護学実習 | | | | | | | | | | 2 | 90 | 実習90 | | | | | | |
| | 母性看護学実習 | | | | | | | | | | | | | 2 | 90 | 実習90 | | | |
| | 精神看護学実習 | | | | | | | | | | | | | 2 | 90 | 実習90 | | | |
| | 総合実習 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 90 | 実習90 |
| 小計 | 0 | 8 | | 2 | 67 | | 2 | 90 | | 7 | 300 | | 11 | 495 | | 2 | 90 | | |
| 合計 | 21 | 548 | | 23 | 577 | | 23 | 660 | | 14 | 435 | | 21 | 705 | | 4 | 135 | | |
| 学年合計 | | | | 44 | 1125 | | | | | 37 | 1095 | | | | | 25 | 840 | | |

釧路市立高等看護学院カリキュラム

| | 厚生労働省指定 | | 科目 | 単 位 数 | 時 間 数 | 1 学年 | | | | 2 学年 | | | | 3 学年 | | | | | | |
|--------|---|-------------|--|-------------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--|--|--|
| | 教育内容 | 単 位 数 | | | | 前期 | | 後期 | | 前期 | | 後期 | | 前期 | | 後期 | | | | |
| | | | | | | 単 位 | 時 間 | 単 位 | 時 間 | 単 位 | 時 間 | 単 位 | 時 間 | 単 位 | 時 間 | 単 位 | 時 間 | | | |
| 基礎分野 | 科学的思考の基盤 | 14 | 哲学 | 1 | 30 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 教育学 | 1 | 30 | | | | | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| | 人間と生活、社会の理解 | | 情報科学 | 1 | 30 | | | | | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| | | | 心理学 | 1 | 30 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 社会学 | 2 | 30 | | | 2 | 30 | | | | | | | | | | | |
| | | | 行動科学 | 1 | 30 | | | | | | | | | 1 | 30 | | | | | |
| | | | 英語 I | 1 | 30 | | | 1 | 30 | | | | | | | | | | | |
| | | | 英語 II | 1 | 15 | | | | | 1 | 15 | | | | | | | | | |
| | | | 保健体育 I | 1 | 30 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 保健体育 II | 1 | 15 | | | | | 1 | 15 | | | | | | | | | |
| | | | 文章表現 | 1 | 30 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | コミュニケーション | 1 | 15 | | | 1 | 15 | | | | | | | | | | | |
| | | | 日本の文化 | 1 | 15 | | | 1 | 15 | | | | | | | | | | | |
| 小 計 | 14 | | 14 | 330 | 4 | 120 | 5 | 90 | 4 | 90 | 0 | 0 | 1 | 30 | | | | | | |
| 専門基礎分野 | 人体の構造と機能 | 7 | 解剖生理学 I <small>(導入、総論、骨筋系、脳神経系)</small> | 1 | 30 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 解剖生理学 II <small>(導入、呼吸器系、循環器系)</small> | 1 | 15 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 解剖生理学 III <small>(導入、血液・リンパ系、内分泌・代謝系)</small> | 1 | 15 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 解剖生理学 IV <small>(導入、消化器系、腎・泌尿器系)</small> | 1 | 15 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 解剖生理学 V <small>(導入、感覚器系・耳・皮膚、女性生殖系)</small> | 1 | 15 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 解剖生理学 VI | 1 | 15 | | | 1 | 15 | | | | | | | | | | | |
| | | | 生化学 | 1 | 30 | | | 1 | 30 | | | | | | | | | | | |
| | | | 病理学 | 1 | 30 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 微生物学 | 1 | 30 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 薬理学 | 1 | 30 | | | | | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| | | | 栄養学 | 1 | 30 | | | 1 | 30 | | | | | | | | | | | |
| | | | 治療と検査 | 1 | 30 | | | | | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| | | | 疾病の成り立ちと回復の促進 | 10 | 疾病治療論 I <small>(骨筋系、脳神経系)</small> | 1 | 30 | | | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| | 疾病治療論 II <small>(循環器系)</small> | 1 | | | 15 | | | 1 | 15 | | | | | | | | | | | |
| | 疾病治療論 III <small>(呼吸器系、消化器系、腎・泌尿器系)</small> | 1 | | | 30 | | | 1 | 30 | | | | | | | | | | | |
| | 疾病治療論 IV <small>(血液・リンパ系、内分泌・代謝系、膠原病)</small> | 1 | | | 30 | | | 1 | 30 | | | | | | | | | | | |
| | 疾病治療論 V <small>(感覚器系・耳・皮膚、女性生殖系、菌・口腔系)</small> | 1 | | | 30 | | | 1 | 30 | | | | | | | | | | | |
| | 健康支援と社会保障制度 | 6 | 公衆衛生学 | 1 | 15 | | | | | 1 | 15 | | | | | | | | | |
| | | | 健康支援 | 1 | 30 | | | 1 | 30 | | | | | | | | | | | |
| | | | 社会福祉 | 2 | 30 | | | | | | | | | 2 | 30 | | | | | |
| | | | 関係法規 | 1 | 30 | | | | | | | | | 1 | 30 | | | | | |
| | | | 保健医療論 | 1 | 15 | | | | | | | | | 1 | 15 | | | | | |
| | | | 小 計 | 23 | | 23 | 540 | 7 | 150 | 9 | 240 | 3 | 75 | 0 | 0 | 4 | 75 | | | |
| 専門分野 | 基礎看護学 | 13 | 看護学概論 | 1 | 30 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 看護倫理 | 1 | 15 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 看護過程 | 1 | 30 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 基礎看護学方法論 I <small>(コミュニケーション、教育・指導技術)</small> | 1 | 30 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 基礎看護学方法論 II <small>(ヘルスアセスメント)</small> | 1 | 30 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 基礎看護学方法論 III <small>(食事・栄養、排泄)</small> | 1 | 30 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 基礎看護学方法論 IV <small>(環境、活動・休息)</small> | 1 | 30 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 小 計 | 13 | | 13 | 390 | 13 | 390 | | | | | | | | | | | |

| | 厚生労働省指定 | | 科目 | 単 位 数 | 時間 数 | 1 学年 | | | | 2 学年 | | | | 3 学年 | | | | | | |
|-------------------|----------|--------------------------|----------------------------|-------------|---------|------|----|-----|----|------|----|-----|----|------|----|--------|----------|--|--|--|
| | 教育内容 | 単位数 | | | | 前期 | | 後期 | | 前期 | | 後期 | | 前期 | | 後期 | | | | |
| | | | | | | 単位 | 時間 | 単位 | 時間 | 単位 | 時間 | 単位 | 時間 | 単位 | 時間 | 単位 | 時間 | | | |
| 専 門 分 野 | 地域・在宅看護論 | 6 | 基礎看護学方法論V (清潔、衣生活) | 1 | 30 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 基礎看護学方法論VI (感染予防、安全・安楽) | 1 | 30 | | | 1 | 30 | | | | | | | | | | | |
| | | | 基礎看護学方法論VII (診療の補助技術) | 1 | 30 | | | 1 | 30 | | | | | | | | | | | |
| | | | 臨床看護総論 | 1 | 30 | | | | | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| | | | 看護研究方法論I | 1 | 15 | | | | | 1 | 15 | | | | | | | | | |
| | | | 看護研究方法論II | 1 | 30 | | | | | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| | 成人看護学 | 6 | 地域・在宅看護概論I | 1 | 15 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 地域・在宅看護概論II | 1 | 30 | | | | | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| | | | 地域・在宅看護過程 | 1 | 15 | | | | | | | 1 | 15 | | | | | | | |
| | | | 地域・在宅看護方法論I | 1 | 15 | | | | | | | 1 | 15 | | | | | | | |
| | | | 地域・在宅看護方法論II | 1 | 30 | | | | | | | 1 | 30 | | | | | | | |
| | | | 地域・在宅看護方法論III | 1 | 15 | | | | | | | | | 1 | 15 | | | | | |
| | | | 成人看護学概論 | 1 | 30 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 成人臨床看護I(慢性期) | 1 | 30 | | | | | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| | | | 成人臨床看護II(終末期) | 1 | 30 | | | | | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| | | | 成人臨床看護III(周術期) | 1 | 30 | | | | | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| | 老年看護学 | 4 | 成人臨床看護IV(急性期) | 1 | 30 | | | | 1 | 30 | | | | | | | | | | |
| | | | 成人看護過程 | 1 | 15 | | | | | | 1 | 15 | | | | | | | | |
| | | | 老年看護学概論 | 1 | 30 | | | 1 | 30 | | | | | | | | | | | |
| | | | 老年臨床看護 | 1 | 30 | | | 1 | 30 | | | | | | | | | | | |
| | 小児看護学 | 4 | 老年看護過程 | 1 | 15 | | | 1 | 15 | | | | | | | | | | | |
| | | | 認知症の看護 | 1 | 15 | | | | | 1 | 15 | | | | | | | | | |
| | | | 小児看護学概論 | 1 | 30 | | | 1 | 30 | | | | | | | | | | | |
| | 母性看護学 | 4 | 小児臨床看護I | 1 | 30 | | | | | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| | | | 小児臨床看護II | 1 | 30 | | | | | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| | | | 小児看護過程 | 1 | 15 | | | | | | | 1 | 15 | | | | | | | |
| | | | 母性看護学概論 | 1 | 30 | | | | | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| | 精神看護学 | 4 | 母性臨床看護I | 1 | 30 | | | | | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| | | | 母性臨床看護II | 1 | 30 | | | | | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| | | | 母性看護過程 | 1 | 15 | | | | | | | 1 | 15 | | | | | | | |
| | | | 精神看護学概論 | 1 | 30 | | | | | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| | 看護の統合と実践 | 4 | 精神臨床看護I | 1 | 30 | | | | | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| 精神臨床看護II | | | 1 | 30 | | | | | | | | | 1 | 30 | | | | | | |
| 精神看護過程 | | | 1 | 15 | | | | | | | | | 1 | 15 | | | | | | |
| 看護管理 | | | 1 | 15 | | | | | | | | | 1 | 15 | | | | | | |
| 看護実践と医療安全 | | | 1 | 30 | | | | | | | | | 1 | 30 | | | | | | |
| 災害看護・国際看護 看護研究 | | | 1 | 15 30 | | | | | | | | | | | | 1 1 | 15 30 | | | |
| 小 計 | 45 | | 45 | 1140 | 10 | 270 | 7 | 180 | 14 | 405 | 7 | 135 | 5 | 105 | 2 | 45 | | | | |
| 専 門 分 野 | 24 | 基礎看護学実習I・II | 3 | 135 | | | 8 | 37 | 2 | 90 | | | | | | | | | | |
| | | 地域・在宅看護実習 I・II・III・IV | 5 | 195 | | | 1 | 30 | | | 1 | 30 | 3 | 135 | | | | | | |
| | | 成人看護学実習 I・II・III | 6 | 270 | | | | | | | 4 | 180 | 2 | 90 | | | | | | |
| | | 老年看護学実習 | 2 | 90 | | | | | | | 2 | 90 | | | | | | | | |
| | | 小児看護学実習 | 2 | 90 | | | | | | | | | 2 | 90 | | | | | | |
| | | 母性看護学実習 | 2 | 90 | | | | | | | | | 2 | 90 | | | | | | |
| | | 精神看護学実習 | 2 | 90 | | | | | | | | | 2 | 90 | | | | | | |
| | | 総合実習 | 2 | 90 | | | | | | | | | | | | 2 | 90 | | | |
| 小 計 | 24 | | 24 | 1050 | 0 | 8 | 2 | 67 | 2 | 90 | 7 | 300 | 11 | 495 | 2 | 90 | | | | |
| 総 計 | 106 | | 106 | 3060 | 21 | 548 | 23 | 577 | 23 | 660 | 14 | 435 | 21 | 705 | 4 | 135 | | | | |

釧路市立高等看護学院カリキュラム進度

| 教育内容 | 単位数 | 科目 | 単位数 | 時間数 | 1 学年 | | | | | | | | | | | | 2 学年 | | | | | | | | | | | | 3 学年 | | | | | | | | | | | |
|--------|-------------------------|--------------|-----|-----|----------|-----|---------|---|---|---|----|----|----|---|---|---|--------|---|--------|---|---|---|----|----|----|---|----|---|--------|---|--------|---|---|---|----|----|----|---|---|---|
| | | | | | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基礎分野 | 科学的思考の基盤 人間と生活、社会の理解 | 哲学 | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 教育学 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 情報科学 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 心理学 | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 社会学 | 2 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 行動科学 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | |
| | | 英語 I | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 英語 II | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 保健体育 I | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 保健体育 II | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 文章表現 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | コミュニケーション | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 日本の文化 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 小計 | 14 | | 14 | 330 | 9 (210) | | | | | | | | | | | | 4 (90) | | | | | | | | | | | | 1 (30) | | | | | | | | | |
| 専門基礎分野 | 人体の構造と機能 | 解剖生理学 I | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 解剖生理学 II | 1 | 15 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 解剖生理学 III | 1 | 15 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 解剖生理学 IV | 1 | 15 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 解剖生理学 V | 1 | 15 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 解剖生理学 VI | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 生化学 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 病理学 | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 微生物学 | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 薬理学 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 疾病の成り立ちと回復の促進 | 栄養学 | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 治療と検査 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 疾病治療論 I | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 疾病治療論 II | 1 | 15 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 疾病治療論 III | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 疾病治療論 IV | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 疾病治療論 V | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 健康支援と社会保障制度 | 6 | 15 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 健康支援 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 社会福祉 | 2 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | |
| 関係法規 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | |
| 保健医療論 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | |
| 小計 | 23 | | 23 | 540 | 16 (390) | | | | | | | | | | | | 3 (75) | | | | | | | | | | | | 4 (75) | | | | | | | | | | | |
| 専門分野 | 基礎看護学 | 看護学概論 | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 看護倫理 | 1 | 15 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 看護過程 | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 基礎看護学方法論 I | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 基礎看護学方法論 II | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 基礎看護学方法論 III | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 基礎看護学方法論 IV | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | 厚生労働省指定 | | 科目 | 単位数 | 時間数 | 1 学年 | | | | | | | | | | | | 2 学年 | | | | | | | | | | | | 3 学年 | | | | | | | | | | | |
|------------------|---------------|-----------|----------------------------|------|----------|----------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|----------|----------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---------|----------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | 教育内容 | 単位数 | | | | 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 | | | | | | | | | | | | 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 | | | | | | | | | | | | 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 専 門 分 野 | 地域・在宅看護論 | 6 | 基礎看護学方法論V (清潔、衣生活) | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 基礎看護学方法論VI (感染予防、安全・安楽) | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 基礎看護学方法論VII (診療の補助技術) | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 臨床看護総論 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 看護研究方法論I | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 看護研究方法論II | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 地域・在宅看護概論I | 1 | 15 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 地域・在宅看護概論II | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 地域・在宅看護過程 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | |
| | | | 地域・在宅看護方法論I | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | |
| | 地域・在宅看護方法論II | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | |
| | 地域・在宅看護方法論III | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | |
| | 成人看護学 | 6 | 成人看護学概論 | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 成人臨床看護I(慢性期) | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 成人臨床看護II(終末期) | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 成人臨床看護III(周術期) | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 成人臨床看護IV(急性期) | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 成人看護過程 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 老年看護学 | 4 | 老年看護学概論 | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 老年臨床看護 | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 老年看護過程 | 1 | 15 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 認知症の看護 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 小児看護学 | 4 | 小児看護学概論 | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 小児臨床看護I | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 小児臨床看護II | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 母性看護学 | 4 | 小児看護過程 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | |
| | | | 母性看護学概論 | 1 | 30 | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 母性臨床看護I | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 精神看護学 | 4 | 母性臨床看護II | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 母性看護過程 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | |
| 精神看護学概論 | | | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 看護の統合と実践 | 4 | 精神臨床看護I | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 精神臨床看護II | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | |
| | | 精神看護過程 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | |
| | | 看護管理 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | |
| | | 看護実践と医療安全 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | |
| | | 災害看護・国際看護 | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | |
| | | 看護研究 | 1 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | |
| 小計 | 45 | | 45 | 1140 | 17(450) | | | | | | | | | | | | 21(450) | | | | | | | | | | | | 7(150) | | | | | | | | | | | | |
| 専 門 分 野 | 臨地実習 | 24 | 基礎看護学実習I・II | 3 | 135 | ◇ | | | | | | | | | | | | ◇ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 地域・在宅看護実習I・II・III・IV | 5 | 195 | ◇ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ←→ ←→ | | | | | | | | | | | |
| | | | 成人看護学実習I・II・III | 6 | 270 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | ←→ ←→ | | | | | | | | | | | |
| | | | 老年看護学実習 | 2 | 90 | | | | | | | | | | | | | ←→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 小児看護学実習 | 2 | 90 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ←→ ←→ | | | | | | | | | | | |
| | | | 母性看護学実習 | 2 | 90 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ←→ ←→ | | | | | | | | | | | |
| | | | 精神看護学実習 | 2 | 90 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ←→ ←→ | | | | | | | | | | | |
| | | | 総合実習 | 2 | 90 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◇ | | | | | | | | | | | |
| 小計 | 24 | | 24 | 1050 | 2(75) | | | | | | | | | | | | 9(370) | | | | | | | | | | | | 13(585) | | | | | | | | | | | | |
| 総計 | 106 | 総計 | 106 | 3060 | 44(1125) | | | | | | | | | | | | 37(1095) | | | | | | | | | | | | 25(840) | | | | | | | | | | | | |

(設置)

第 1 条 市は、保健師助産師看護師法(昭和 23 年法律第 203 号)第 21 条第 2 号の規定による看護師養成機関として、釧路市立高等看護学院(以下「学院」という。)を釧路市病院事業の設置等に関する条例(平成 17 年釧路市条例第 139 号)第 2 条第 2 項に規定する市立釧路総合病院に附置する。

(位置)

第 2 条 学院は、釧路市春湖台 1 番 18 号に置く。

(職員)

第 3 条 学院に、学院長その他必要な職員を置く。

(受験料、入学科及び授業料)

第 4 条 学院に入学しようとする者及び学生からは、次の受験料、入学科及び授業料を徴収する。

- (1) 受験料 15,000 円
- (2) 入学科 100,000 円
- (3) 授業料 月額 30,000 円

2 入学科及び授業料は、市長が特別の事情があると認めたときは、その徴収を猶予し、又は減免することができる。

(委任)

第 5 条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成 17 年 10 月 11 日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の日(以下「施行日」という。)の前日までに、合併前の釧路市立高等看護学院条例(昭和 43 年釧路市条例第 11 号。以下「合併前の条例」という。)の規定によりなされた手続その他の行為は、それぞれこの条例の相当規定によりなされたものとみなす。
- 3 平成 17 年度において 3 年次に転入学する者に係る入学科については、なお合併前の条例の例による。
- 4 平成 16 年 3 月 31 日以前に入学をした者で施行日の前日まで引き続き学院に在籍するものに係る授業料の額は、なお合併前の条例の例による。
- 5 転入学しようとする者に係る受験料及び転入学をした者に係る授業料の額は、第 4 条第 1 号及び第 3 号の規定にかかわらず、当該者が転入学をしようとする年次又は転入学をした年次に属する在学者に係る額と同額とする。

附 則(平成 19 年 3 月 22 日条例第 20 号)

(施行期日)

1 この条例は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の際、現に釧路市立高等看護学院(以下「学院」という。)に在籍する者に係る授業料の額は、改正後の第 4 条第 1 項第 3 号の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 次の表の左欄の年度に学院に入学しようとする者に係る受験料の額は、改正後の第 4 条第 1 項第 1 号の規定にかかわらず、同表のそれぞれの区分に応じた額とする。

| 年度 | 受験料 |
|----------|----------|
| 平成 20 年度 | 11,000 円 |
| 平成 21 年度 | 13,000 円 |

4 次の表の左欄の年度に学院に入学した者に係る入学科の額及び授業料の月額、改正後の第 4 条第 1 項第 2 号及び第 3 号の規定にかかわらず、同表のそれぞれの区分に応じた額とする。

| 年度 | 入学科 | 授業料 |
|----------|----------|----------|
| 平成 19 年度 | 30,000 円 | 11,000 円 |
| 平成 20 年度 | 40,000 円 | 13,000 円 |

- 5 この条例の施行の日以後において、学院に転入学をしようとする者に係る受験料又は転入学をした者に係る入学料若しくは授業料の額は、改正後の第4条第1項の規定にかかわらず、当該者が転入学をしようとする年次又は転入学をした年次に属する在籍する者に係る額と同額とする。

附 則(平成22年3月23日条例第2号)抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成25年12月13日条例第51号)抄

(施行期日)

- 第1条 この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成30年6月25日条例第31号)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成31年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の際、現に釧路市立高等看護学院(以下「学院」という。)に在籍する者に係る授業料の額については、改正後の第4条第1項第3号の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 この条例の施行の日以後において、学院に転入学をした者に係る入学料及び授業料の額については、改正後の第4条第1項第2号及び第3号の規定にかかわらず、当該者が転入学をした年次に属する在籍する者に係る額と同額とする。

附 則(令和2年3月24日条例第15号)

この条例は、令和2年4月1日から施行する。

実 習 計 画

| 学年 期 | 1 学 年 | | | | 2 学 年 | | | | 3 学 年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|-------|-----|------------|------------|------------|---------------|--------------|---------------|--------------|--------------------|--------------------|--------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|------------|------|------------|-----------|------|----|----|---|---|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | 前 期 | 後 期 | 前 期 | 後 期 | 前 期 | 後 期 | 前 期 | 後 期 | 前 期 | 後 期 | 前 期 | 後 期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 行事 | 入学式 | 宣誓式 | 冬季休暇 4W | 春季休暇 3W | 夏季休暇 4W | 基礎看護学実習 I - 1 | 地域・在宅看護実習 I | 基礎看護学実習 I - 2 | 地域・在宅看護実習 II | 成人 I・成人 II・老年看護学実習 | 成人 I・成人 II・老年看護学実習 | 成人 I・成人 II・老年看護学実習 | 地域在宅Ⅲ・地域在宅Ⅳ・成人Ⅲ・小児・母性・ 精神看護学実習 | 地域在宅Ⅲ・地域在宅Ⅳ・成人Ⅲ・小児・母性・ 精神看護学実習 | 夏季休暇 4W | 総合実習 | 冬季休暇 4W | 卒業式 3W | 春季休暇 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 休業数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | | | | | | | | | | | | | |
| 実 習 進 度 | (8H) | | | | | | 1単位 (30H) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

2単位 (90H)
成人Ⅲ 2単位(90H)
小児 2単位(90H)
母性 2単位(90H)
精神 2単位(90H)
地域・在宅Ⅲ 1単位(45H)
地域・在宅Ⅳ 2単位(90H)

1単位 (30H) 成人Ⅰ・Ⅱ 4単位(180H)
老年 2単位 (90H)

2単位 (90H)

1単位 (37H)

1単位 (45H)

本学院の倫理についての考え方

日本看護協会の「看護職の倫理綱領」は、あらゆる場で実践を行う看護職を対象とした行動指針であり、自己の実践を振り返る際の基盤を提供するものである。また、看護の実践について専門職として引き受ける責任の範囲を、社会的に対して明示するものである。(前文より抜粋)

「看護職の倫理綱領」(下記の表、左側が本文)に基づき、本学院の倫理の行動指針(下記の表、右側)を明示する。

| 看護職の倫理綱領 | 本学院の倫理行動指針 |
|--|---|
| 1. 看護職は人間の生命、人間としての尊厳および権利を尊重する。 | 1. 対象及び家族に対し、礼節を重んじる態度で接する。 |
| 2. 看護職は、対象となる人々に平等に看護を提供する。 | 2. 「基礎看護技術の経験チェック表」に基づき行動し、安全安楽に援助できるよう努める。 |
| 3. 看護職は、対象となる人々との間に信頼関係を築き、その信頼関係に基づいて看護を提供する。 | 3. 学生として常に患者の安全を最優先する。判断に迷う場合には、実習指導者に助言・指導を求める。 |
| 4. 看護職は、人々の権利を尊重し、人々が自らの意向や価値観に沿った選択ができるよう支援する。 | 4. 看護学生が看護行為を行う際には、対象へ説明し同意を得て実施する。 |
| 5. 看護職は、対象となる人々の秘密を保持し、取得した個人情報に適正に取り扱う。 | 5. 学習者として理解できないことは時期を逃さず助言を求めたり学習をすすめるなど、理解に努める。 |
| 6. 看護職は、対象となる人々に不利益や危害が生じているときは、人々を保護し安全を確保する。 | 6. 対象の記載されている実習記録・メモ帳などの管理を徹底する。実習終了後は、実習要項に沿って、速やかに対処する。 |
| 7. 看護職は、自己の責任と能力を的確に把握し、実施した看護について個人としての責任を持つ。 | 7. 公共の場で実習に関わることはもちろん学校生活上の個人情報について漏洩しない。 |
| 8. 看護職は、常に、個人の責任として継続学習による能力の開発・維持・向上に努める。 | 8. 学生同士において、互いに尊重した態度で接し、目的達成のため研鑽し合う。 |
| 9. 看護職は、多職種で協働し、よりよい保健・医療・福祉を実現する。 | 9. 看護学生として、感染予防や早期受診など、自己の健康管理に努める。 |
| 10. 看護職は、より質の高い看護を行うために、自らの職務に関する行動基準を設定し、それに基づき行動する。 | 10. 専門知識・技術・態度を身につけるために主体的・積極的に学習する。 |
| 11. 看護職は、研究や実践を通して、専門的知識・技術の創造と開発に努め、看護学の発展に寄与する。 | 11. 対象との物品の貸し借りや金品の授受は、実習の意義を勘案し、行わない。 |
| 12. 看護職は、より質の高い看護を行うため、看護職自信のウェルビーイングの向上に努める。 | 12. 看護学生として、よりよい社会づくり・組織作りの一環としてボランティア活動や自治会活動に積極的に参加する。 |
| 13. 看護職は、常に品位を保持し、看護職に対する社会の人々の信頼を高めるよう努める。 | 13. 看護学生として、常に身だしなみを整え、言動に注意する。 |
| 14. 看護職は、人々の生命と健康をまもるため、さまざまな問題について、社会正義の考え方をもって社会と責任を共有する。 | 14. 学院や実習施設などの規定や約束事を遵守する。 |
| 15. 看護職は、専門職組織に所属し、看護の質を高めるための活動に参画し、よりよい社会づくりに貢献する。 | |
| 16. 看護職は、様々な災害支援の担い手と協働し、災害によって影響を受けたすべての人々の生命、健康、生活をまもることに最善を尽くす。 | |

令和4年4月1日～

学 生 心 得

届出・願出について

1. 学生は、入学後すみやかに誓約書を学院長に提出しなければならない。(学則第12条)
2. 学則第9条から第18条までの規定に基づく各届出は、学則施行細則(以下「細則」という)に定める各様式により学院長に提出しなければならない。

学生証について

1. 学生は、学院長の発行する学生証を常に携帯しなければならない。
2. 学生証を破損または紛失したときは、すみやかに学院長に申し出て再交付を受けなければならない。
3. 学生証は、卒業・転学・退学及び有効期間の経過によりその効力を失ったときは、すみやかに返納しなければならない。
4. 学生証は、他人に貸与または譲渡することはできない。

各種証明書の発行について

1. 各種証明書が必要なときは、証明書申込書に記入し申し出ること。様式は、P.45参照
2. 学生運賃割引証は学生一人当たり年間8枚を限度として交付する。ただし未使用分の学生運賃割引証の翌年度繰越は行わない。
3. 学生運賃割引証は、他人に貸与または譲渡することはできない。
4. 学生運賃割引証発行を受けた者が、都合により使用しなかった場合は、速やかに学院に返納しなければならない。

健康管理について

1. 本学院健康管理規程に基づき、学生は毎年学院で実施する健康診断を受けなければならない。
2. 疾病または正当な理由により前条の健康診断を受けることの出来ない者は、学院長に届け出なければならない。
3. 前条により診断を延期していた者は、その事由が消滅した場合は学院長に届け出て、健康診断を受けなければならない。

スクールカウンセラーについて

1. 月に2回程度、不定期で2階ミーティング室1にて開催(原則16:00~18:00)
2. 相談希望者は、実施時間内に直接相談するか、事前に教員に予約したい旨を申し出る。

クラスの運営について

1. 学院生活を円滑に行うため次の委員をおくものとする。
 - (1) ルーム長、副ルーム長 各1名 … クラス全体の運営・出欠席の報告・教務との連絡
 - (2) 会 計 2名 … クラスに関する諸経費の支出及び報告
 - (3) 図 書 4名 … 図書貸出、図書整理など
 - (4) 保 健 2名 … クラスの健康状態、健康診断の準備など
 - (5) 美化委員 2名 … 掃除の点検
 - (6) 書 記 2名 … クラス運営に関する記録
2. 次の任務を行うため、各クラスに係(日番)をおく。
 - (1) 任務 …… 授業日誌の記録
 - (2) 教材の準備
 - (3) 教室内の整理整頓(特に教卓、黒板、手拭きの準備、花の水)
3. 次の要領に従い清掃を行わなければならない。
 - (1) 毎日行う場所 …… 教室、学生更衣室、学生トイレ2階・3階、自販機コーナーと給湯室
 - (2) 1週間に1回及び 使用の都度行う場所 …… { 保健室、実習教室、看護実習室、母性小児看護実習室、在宅看護実習室、自治会室、準備室1・2、ミーティングルーム1・2・3、洗濯室、リネン庫
 - (3) 大掃除は年に3回行う。(長期休暇前) 上記他、準備室3・4・5、体育館

4. 学生の校具、教材及び図書の利用は次のとおりとする。
 - (1) 学生が学院備付けの図書を利用する場合、別に定める図書管理規程を守らなければならない。
 - (2) 教材使用の際は、使用簿に記入し許可を得ること。
 - (3) 物品は大切に取り扱い、破損の場合は教務に申し出、場合によっては各自実費を負担することもある。
 - (4) 学生は、学院掲示板に掲示された公示及び各学級への連絡事項を必ず見なければならない。

服装及び接遇について

1. 服装は清潔質素を旨とし、学生としての品位を保つことに留意しなければならない。
 - (1) 学院内での服装は華美にならないよう各自気をつけること。
 - (2) 院外実習及び施設見学時の服装
夏季 … 白ブラウス、黒・グレー・紺色のスカート・ズボン
冬季 … 黒・グレー・紺のスーツ
※ただし、実習施設により服装の指定がある場合もある。
 - (3) 髪は自然な色とし、清潔で見苦しくないこと。
 - (4) 上履きはスリッパ、サンダルを使用しないこと。
 - (5) 実習衣のまま外出しないこと。
 - (6) 私服で病室へ行かない。
 - (7) 実習衣着用の際は、一切の装飾品を禁止する。また、爪は短く切りマニキュアもしないこと。
 - (8) 病院内では特に静粛を保つようにする。
 - (9) 言葉は明瞭、快活で品位があること。
 - (10) いずれの場合でも、教員、先輩、病院関係者への挨拶をすること。
 - (11) 体育時の服装は運動着を着用し、運動靴を用いる。

アルバイトについて

1. 本学院はアルバイトを積極的に奨励していないが、アルバイトを行う場合は長期休暇が望ましい。やむを得ない場合は祝日、土曜日、日曜日など学業に支障のないようにする。
2. アルバイトを行う学生は、成績の低下や生活面の乱れが生じないように、時間、条件、職種等について十分注意する。
3. 時間は夜22時まで帰宅可能であることが望ましい。
4. アルバイトを行う学生は、未取得単位がなく学業の成績が優秀であること。

掲示物、校舎使用について

1. 学生が学院の施設内において諸行事を行う場合は、本学院校舎の管理に関する規則、規程等に従わなければならない。
2. 学生が放課後又は休業日等に校舎又は備え付けの物品を使用する場合は、あらかじめ、学院長の承認を受けなければならない。
3. 学生が学院内において、ビラ、ポスター、パンフレット、新聞その他印刷物を掲示し、又は配布しようとするときは、あらかじめ学院長の承認を受けなければならない。ただし、掲示する場合は学院長の定めた掲示場所以外を使用してはならない。

その他

1. 学生が集団で福祉活動及び社会活動をしようとするときは、学院長の承認を受けなければならない。
2. 教育及び生活にかかわる疑義がある場合は、学務課長に意見を述べ、学務課長は業務基準により運営会議に提出し、検討する。

看護職員養成修学資金及び奨学金のあらまし

| | 北海道 | 市立釧路総合病院 | 日本学生支援機構 | |
|--------------|--|--|--|-------------------------------------|
| 貸付目的 | 将来道内において看護業務に従事しようとする者 | 市の開設する医療機関に直接従事しようとする者 | 勉学に励む意欲があり、それにふさわしい能力を持った者 | |
| 貸付金額 (月額) | 36,000円 | 30,000円 | 第一種奨学金 ・自宅 45,000円 ・自宅外 51,000円 | 第二種奨学 20,000～120,000円 の範囲内で選択 |
| 貸付期間 | 在学期間 | 在学期間 | 在学期間 | |
| 返還の免除 | 道内の病院その他の施設であって規則で定めるもの(特定施設)、訪問看護事業所又は介護予防訪問看護事業において看護業務に5年以上従事すること | 貸付を受けた期間勤務した時 | なし | |
| 申請書類 | 1. 申請書・誓約書 2. 身上申告書 3. 戸籍謄本又は住民票謄本 4. 学校長の推薦書 5. 口座振替申出書 | 1. 申請書 2. 貸与契約証書 3. 交付請求書 4. 戸籍謄本 5. 健康診断書 6. 成績証明書 7. 在学証明書 8. 口座振込依頼書 | 1. 学校長の推薦書 2. 所得証明書 3. 確認書 4. 保証人の印鑑証明書 | |
| 備考 | 人数に制限があるため、貸付を受けられない場合があります。 | | 無利子 | 有利子 |

●日本学生支援機構の給付奨学金

給付奨学金については、基本返還の必要はないが、学業成績等の内容によっては、返還義務が生じる場合もある。

支援対象者の要件（個人要件）等＜所得に関する要件と目安年収＞

以下の算式により算出された額について、学生等及びその生計維持者の合計額が以下の基準額に該当すること

【算式】市町村民税の所得割の課税標準額×6%－（調整控除の額＋税額調整額）

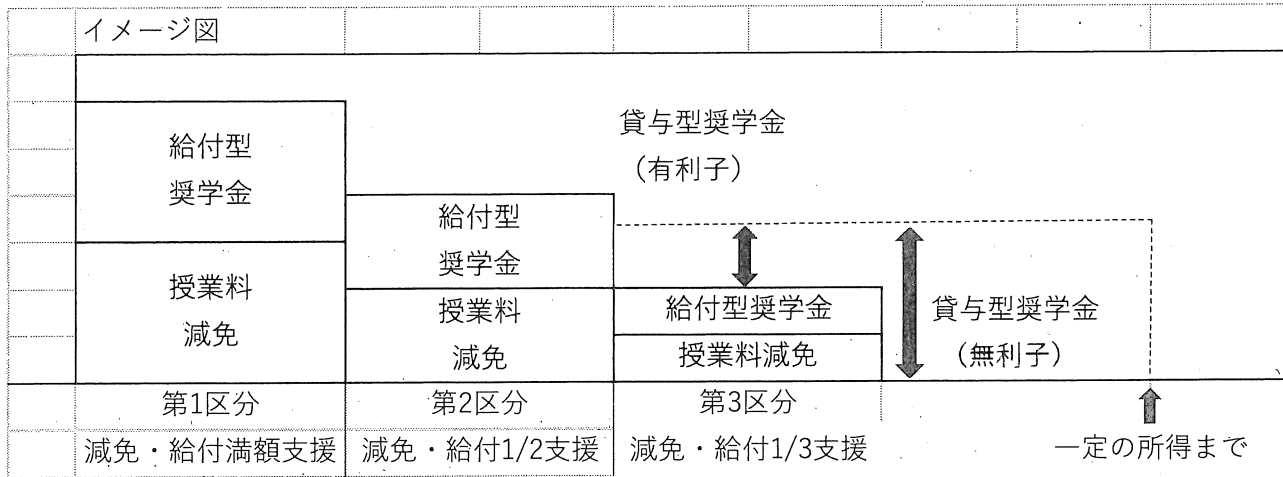
【基準額】 第Ⅰ区分（標準額の支援） 100円未満

第Ⅱ区分（標準額の2/3支援） 100円以上～25,600円未満

第Ⅲ区分（標準額の1/3支援） 25,600円以上～51,300円未満

所得基準に相当する目安年収（例）

| | | 住民税非課税 | 住民税非課税準ずる世帯 | |
|---------------------------------|---------------------|---------|-------------|---------|
| | | 第Ⅰ区分 | 第Ⅱ区分 | 第Ⅲ区分 |
| | | 3分の3 | 3分の2 | 3分の1 |
| | | (支援額) | | |
| ひとり親世帯（母のみが生計維持者の場合） | 子1人 （本人） | ～約210万円 | ～約300万円 | ～約370万円 |
| | 子2人 （本人・高校生） | ～約270万円 | ～約360万円 | ～約430万円 |
| | 子3人 （本人・高校生・中学生） | ～約270万円 | ～約360万円 | ～約430万円 |
| | 子3人 （本人・大学生・中学生） | ～約290万円 | ～約390万円 | ～約460万円 |
| ふたり親世帯（両親が生計維持者）※片働き（一方が無収入）の場合 | 子1人 （本人） | ～約220万円 | ～約300万円 | ～約380万円 |
| | 子2人 （本人・中学生） | ～約270万円 | ～約300万円 | ～約380万円 |
| | 子3人 （本人・高校生・中学生） | ～約320万円 | ～約370万円 | ～約430万円 |
| | 子3人 （本人・大学生・中学生） | ～約320万円 | ～約400万円 | ～約460万円 |



入学前の既修得単位の認定について

釧路市立高等看護学院学則施行細則第16条2項の規程に基づいて、既修得単位の認定を希望する者は、次の書類を所定の期日までに学院長に提出しなければならない。

記

- (1) 既修得単位認定申請書（第10号様式）（P.46 参照）
- (2) 卒業証明書又は退学証明書
- (3) 成績及び単位修得証明書

健康管理規程

第1章 総則

第1条 この規定は釧路市立高等看護学院学則（2005(平成17)年釧路市規則第168号）の規定に基づき健康管理に関し必要な事項を定め、学生の健康保持をはかることを目的とする。

第2条 健康管理には、健康管理医及び学院長の定める専任教員がこれにあたる。

第3条 健康診断は次の2種とする。

- (1) 定期健康診断
- (2) 臨時健康診断

第4条 健康管理のために学生の健康手帳を作成し在学中の健康状態を記録するものとする。

2 毎月1回体重測定等を実施し、健康手帳に記録する。

第2章 定期健康診断

第5条 定期健康診断は年2回（春・秋）学生全員に実施する。検査項目は次のとおりとする。

- (1) 胸部X線撮影（年1回とする）
- (2) 赤血球沈降速度測定
- (3) 検尿（蛋白、糖）
- (4) 一般計測（身長、体重、胸囲、視力）
- (5) 血圧測定
- (6) 内科的診断
- (7) 検血（年1回とする）

2 入学時の定期健康診断には次の検査項目を加えるものとする。

- (1) 生化学検査
- (2) HBs抗原・抗体、HCV抗体
- (3) 血清梅毒反応検査
- (4) 色盲検査
- (5) 結核感染検査（T-SPOT）
- (6) 感染症抗体検査（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）

第6条 定期健康診断を実施したときはその結果を健康手帳に記録する。

第3章 臨時健康診断

第7条 臨時健康診断は感染予防の目的をもって学生全員又は一部の者に対して、必要に応じて実施する。

第4章 指示

第8条 定期健康診断及び臨時健康診断の結果に基づき健康管理者は、次の指示を行うものとする。

- (1) 要療養及び休業
- (2) 要軽業（体育の禁止等）
- (3) 要注意

第9条 要軽業、要注意者は毎月血沈検査、その他必要な検査をし、診断を受ける。

第5章 一般診療

第10条 学生は健康に異常のあるときは、すみやかに各学年保健委員又は健康管理者に届出るものとする。

2 各学年保健委員は届出を受けたときは、ただちに健康管理者に報告する。

3 健康管理者は健康管理医と協議のうえ適切な処置を行うものとする。

第11条 学生が診療を希望するときは、自己の所有する健康保険証もしくはこれに代わるものをもって、受診する。

第12条 前条の診療の結果、健康管理者は必要な指示を行う。

2 第8条及び第9条の規定は前項の場合に準用する。

第13条 学生は学院団体加入による傷害保険に一括加入をし万一の傷害の場合には規定の補償を受けることができる。

附則

この規程は昭和60年4月1日から適用する。

附則

この規程は平成16年4月1日から施行する。

附則

この規程は平成17年10月11日から施行する。

附則

この規程は平成19年4月1日から施行する。

附則

この規程は平成21年4月1日から施行する。

釧路市立高等看護学院図書管理規程

(目 的)

第1条 この規程は釧路市立高等看護学院（以下「学院」という。）の所蔵する図書資料の利用に関し必要な事項を定めるものとする。

(開室及び休室)

第2条 図書室は次のとおり開室及び休室する。

1. 平日は8時から18時迄開室する。
2. 土曜日、日曜日、国民の休日、年末年始は休室する。
3. 曝書、蔵書の点検、その他必要ある場合は予め公示して休室することがある。

(利用者)

第3条 図書資料を利用することができる者は次のとおりとする。

1. 本学院教職員
2. 本学院学生
3. 本学院卒業生
4. 上記以外で学院長の許可を得た者

(閱 覧)

第4条 閲覧しようとする者は閲覧規程を守らなければならない。閲覧規程は別に定める。

(貸 出)

第5条 図書は必要に応じて、その一部を職員室・各室・その他学院長の認める場所に貸出し別置することができる。

(返 納)

第6条 学院長は曝書・その他必要があるときは、貸出期間内にあっても閲覧図書の返納を命じることができる。返納命令があったときは滞出者は直ちに図書を返納しなければならない。

(資料の紛失・損傷)

第7条 図書室資料を紛失又は甚だしく損傷したものは同一資料又は、それに相当する金額を弁償しなくてはならない。

附 則

この規程は昭和60年4月1日から適用する。

附 則

この規程は平成17年8月1日から施行する。

閱 覧 規 程

1. 貸出期間
専 門 図 書 7日間
一 般 教 養 図 書 14日間
但し、春季・夏季・冬季休暇中はその期間とする。
2. 図書利用の際は、必ず貸出カードに記録し、1枚は図書委員へ提出の事
3. 貸出期限を守らない場合は、貸出を禁止する場合もある。
4. 図書内容を切り取ったり、又アンダーライン等を引くことを禁ずる。
5. 図書を紛失したり、破損した場合は直ちに申し出ること。
6. 雑誌、辞書は閲覧のみとし、室外貸出はしないのが原則であるが雑誌のみ1日貸出する。
(必ず図書管理の教員に直接申し出ること)
7. 貸出は一人3冊以内とする。
但し、春季・夏季・冬季休暇中は、専門図書3冊、一般教養図書2冊の計5冊以内とする。

車両通学規則

釧路市立高等看護学院の学生の通学に当たっては、徒歩または自転車、公共の交通機関の利用が望ましいが、やむを得ず車両を使用する場合には、以下の事柄を守り安全の確保に十分注意して通学をすること。

- 1 車両通学を希望する者は、あらかじめ所定の車両による通学許可願（P.47 参照）を学院に提出し学院長の許可を受けること。
- 2 車両通学の申請は、原則毎年4月に行うこと。
- 3 車両通学許可願を提出する際には、次にあげるものを提出すること。
 - (1) 運転免許証の写し
 - (2) 駐車場の契約書の写し
 - (3) 前年度も申請し自家用車による通学をしていた学生は、前年度の駐車場代金支払状況がわかる書類
- 4 許可のある駐車場以外（市立釧路総合病院、春採公園、鶴ヶ岱武道館など）には、いかなるときにも駐車しないこと。
- 5 道路交通法の規則を遵守し安全に留意して通学すること。
- 6 車両通学をする場合には、他の本学院生を同乗させてはならない。
- 7 無届で車両通学をしたものは、学則第20条に基づき懲戒処分の対象とする。
- 8 看護学生であることを常に念頭に置き、看護師国家試験受験の妨げになるような行為はしないこと。（刑罰以上の罰を受けたものに関しては看護師国家試験申請時の書類に明記される部分がある。）
- 9 道路交通法違反や車両通学規則の違反をしたもの、車両通学の届け出の内容と異なる事実が明らかになった学生に対しては、車両通学許可を一時停止するか、または、許可を取り消すこともある。
- 10 車両通学を中止し、ほかの通学方法に変更する場合には、速やかに報告をすること。

学院共用パソコン・タブレットパソコン並びに無線 LAN (Wi-Fi)、

NAS(サーバ機)利用規則

【学院共用パソコン・タブレットパソコンの利用】

1 利用者

利用者は、利用誓約書を提出した学生に限る。

2 利用期間

入学時から卒業まで利用できる。

3 利用範囲

学院共用パソコン・タブレットパソコンの利用範囲については、学習活動を前提とし、次の点を遵守すること。

(1) 注意事項

- ・ 個人情報の保護、著作権、肖像権の侵害には十分注意すること。
- ・ USBなどの記憶媒体を使用する際には、必ず自宅等で事前にウイルスチェックを行い、安全であることを確認してから使用することを厳守する。
※学生個人の責任とモラルによることなので、適当な判断で使用することは禁止する。
- ・ ウイルスが検出されたときには、ウイルスが削除または隔離されているか確認する必要があるため、使用せず(放置しない)、必ず教務に報告・相談すること。
- ・ 個人情報及び個人が特定される内容等はハードディスクに保存しない。データの保存・管理は各自責任を持って行い、情報の取り扱いには十分注意する。
- ・ 既に備わっているLANケーブルやマウスなどパソコン周辺機器については、取り外さない。
- ・ ハードディスクに保存していたデータについては、他者に消去や転用されるなどいかなる場合であっても当学院では一切責任を負わない。
- ・ インターネットの使用、情報の閲覧については、講義に関する情報収集以外の目的では使用しない。また、インターネットを介してのトラブルについては、いかなる場合であっても当学院では一切責任を負わない。

(2) 禁止事項(許可されているものは除く)

- ・ 学院共用パソコン・タブレットパソコンを使って、音声、画像、動画、ソフトウェア、アプリ等をダウンロードやアップロードすること。
- ・ メール登録やファイルの配信等を行うこと。
- ・ ツイッターやFacebookなどSNSへの登録及び利用すること。
- ・ 課金の伴うサービスを利用すること。
- ・ 学院外などから持ち込んだデータをハードディスクや、記録メディアに入れること。
- ・ 学院や病院のネットワーク環境の不正利用や破壊などにつながる行為。
- ・ タブレットパソコンで講義以外の目的において写真・動画撮影を行うこと。

4 利用上の注意

- (1) 学院共用パソコン・タブレットパソコンは丁寧に扱うこと。
- (2) システムや端末に対する改変を行わないこと。

5 その他

- (1) 学院共用パソコン・タブレットパソコンに保存したデータ(写真や動画等)は、削除して返却すること。
- (2) 不適切な使用のもと紛失や破損、故障した場合は、弁償となることもある。

【Wi-Fi の利用】

- 1 アクセスポイント設置個所
教務室 (1 階)、図書室、学習室 (2 階)、教室 1・2・3、ホール (3 階)、実習教室 (4 階) の 8 か所に設置する。
- 2 利用にあたって
前記【学院共用パソコン・タブレットパソコンの利用】3 利用範囲を遵守すること。

【NAS (サーバ機) の利用】

- 1 パスワードは口外しないこと。
- 2 サーバ機より取り出した資料は、講義・学習目的以外には使用しないこと。

【共通事項】

- 1 この利用規則に反した場合や、学院の事情などによりやむを得ない場合は、機材の利用を停止することがある。
- 2 この規則に定めのない事項について疑義が生じた場合は教職員で協議し解決を図るものとする。

この規則は平成 27 年 10 月 1 日より施行する。

この規則は令和 3 年 4 月 1 日より施行する。

この規則は令和 5 年 4 月 1 日より施行する。

欠 席 届

令和 年 月 日

釧路市立高等看護学院長 宛

第 学年 (学籍番号)
氏 名

学則第14条の規定に基づき、下記のとおりお届けいたします。

記

1. 欠席日時 自 令和 年 月 日 時 分から
至 令和 年 月 日 時 分まで

2. 欠席日数及び時間数 日 時間

3. 理 由 病欠 事欠 急引 出停

<記載方法>
1. 欠席日時については、実際に欠席した日時を記載する
2. 全日欠席した場合、1日に記載
1時間の中の3分の1以上欠席した場合は1時間の欠席となる
3. 理由には、該当するものに○をつけ、その下に詳しい理由を記載する

(注) 病気のため7日以上欠席するときは、医師の診断書を添付すること。

保 証 人 変 更 届

令和 年 月 日

釧路市立高等看護学院長 宛

第 学年 (学籍番号)
氏 名

学則第12条第3項の規定に基づき、下記のとおりお届けいたします。

記

1. 変更年月日 令和 年 月 日

2. 事 項 の変更
変更前
変更後

3. 理 由
保証人 本 籍
現 住 所
職 業
氏 名
生年月日 年 月 日
本人との続柄

休 学 願

令和 年 月 日

釧路市立高等看護学院長 宛

第 学年 (学籍番号)
氏 名

保証人 住 所
氏 名

保証人 住 所
氏 名

学則第15条第1項の規定に基づき、下記のとおり申請いたします。

記

1. 期 間 令和 年 月 日から
令和 年 月 日まで

2. 理 由

(注) 病気のため休学するときは、医師の診断書を添付すること。

復 学 願

令和 年 月 日

釧路市立高等看護学院長 宛

第 学年 (学籍番号)
氏 名

連帯保証人氏名

学則第16条の規定に基づき、下記のとおり申請いたします。

記

1. 復学の理由

2. 復学年月日 令和 年 月 日

3. 休学期間 令和 年 月 日から
令和 年 月 日まで

転学願

令和 年 月 日

釧路市立高等看護学院長 宛

第 学年 (学籍番号)

氏 名

保証人 住 所

氏 名

保証人 住 所

氏 名

学則第17条の規定に基づき、下記のとおり申請いたします。

記

1. 転学年月日 令和 年 月 日

2. 転学先

3. 理由

退学願

令和 年 月 日

釧路市立高等看護学院長 宛

第 学年 (学籍番号)

氏 名

保証人 住 所

氏 名

保証人 住 所

氏 名

学則第18条の規定に基づき、下記のとおり申請いたします。

記

1. 退学年月日 令和 年 月 日から

2. 理由

(注) 病気のため退学するときは、医師の診断書を添付すること。

許可書

釧路学院 第 号
令和 年 月 日

様

釧路市立高等看護学院
学院長

令和 年 月 日願出のあった件について、学則施行細則第14条の規定に基づき、下記のとおり許可する。

記

1. 許可事項

2. 許可条件等

(再・追)試験願

令和 年 月 日

釧路市立高等看護学院長 宛

第 学年 (学籍番号)

氏 名

学則第21条の規定に基づき、下記のとおり申請いたします。

記

1. 試験科目

2. 担当講師

3. 理由

補充実習・補習願

令和 年 月 日

釧路市立高等看護学院院長 宛

第 学年 (学籍番号)
氏 名

学則施行細則第18条の規定に基づき、下記のとおり申請いたします。

記

- 1. 科 目
- 2. 実習場所
- 3. 理 由

既修得単位認定申請書

令和 年 月 日

釧路市立高等看護学院院長 宛

入学年度
学籍番号
学生氏名

入学前の既修得単位の認定について、下記のとおり必要書類を添えて申請します。

記

在籍大学名

名 称

学部・学科

在籍期間

年 月 日入学

年 月 日卒業

認定希望科目名及び単位数

※ 添付書類

- (1) 卒業証明書
- (2) 成績及び単位修得の証明書

(様式1)

授業料減免申請書

令和 年 月 日

釧路市長 宛

(申請者) 学生氏名 _____

第 学年 第 期生

住 所 _____

(様式4)

入学科等徴収猶予申請書

令和 年 月 日

釧路市長 宛

(申請者) 学生氏名 _____

第 学年 第 期生

住 所 _____

下記のとおり授業料の減免を申請いたします。

記

- 1 減免申請授業料 令和 年 月分 ~ 令和 年 月分
(全額 ・ 半額)
- 2 減免申請理由 災害・その他
- 3 理由書 別添理由書のとおり

下記のとおり入学科等の徴収猶予を申請いたします。

記

- 1 徴収猶予申請内容 (入学科 ・ 授業料 ・ 入学科及び授業料)
授業料対象期間 令和 年 月分 ~ 令和 年 月分
令和 年 第 期分
- 2 徴収猶予申請期間 令和 年 月 日迄
- 3 猶予申請理由 学則第28条 第 号による

車両通学許可願

年 月 日

釧路市立高等看護学院学院長 宛

第 期生 学籍番号 番

氏 名

保護者氏名

車両通学規則について理解し、道路交通法規及び車両通学規則を遵守いたしますので、下記のとおり申請をいたします。

| | | |
|---|----------|--------|
| 現住所 | | |
| 通学距離 約 km | 通学時間 約 分 | |
| 車種 | ナンバー | 色 |
| 車両所有者名 (本人との続柄) | | |
| 駐車場住所 | | |
| 駐車場所有者 | | |
| 駐車場借用期間 | 年 月 ~ | 年 月 まで |
| 通学経路略図 (自宅・駐車場・学院を明記する事) | | |
| <p><記載方法> 自宅から駐車場までどのような経路で通学するのか記載する。遠方の場合は一部省略可。 駐車場から本学院までの経路を記載する。(別紙記載可)</p> | | |

報 告 書

釧路市立高等看護学院
学院長 足立 憲 昭 宛

[報告事項] _____

[報告事項発生日] 年 月 日

[状 況]

[再発行等の申請]

提出日 年 月 日

第 学年 番 氏名

※報告事項発生時、直ちに報告書を提出する
(物品の破損や紛失、交通事故、インシデントなど)

住 所 変 更 届

令和 年 月 日

釧路市立高等看護学院長 宛

第 学年
氏名

籍 変 更 届

令和 年 月 日

釧路市立高等看護学院長 宛

第 学年
氏名

私は () の理由により令和 年 月 日
住所を下記のように変更いたしましたのでお届けします。

新住所・電話番号

旧住所・電話番号

※住所変更時、直ちに届出をする

私は () の理由により令和 年 月 日
籍を下記のように変更いたしましたのでお届けします。

新 { 本籍
氏名

旧 { 本籍
氏名

※本籍変更時、直ちに届出をする

諸 証 明 書

1. 交付する諸証明書

1. 在学証明書
2. 成績証明書
3. 卒業見込証明書
4. 卒業証明書
5. 健康診断書
6. 旅客運賃割引証

2. 申請の手続

1. 証明書を必要とするときは、下記の「各証明申込書」に必要事項を記入し申し込んで下さい。
2. 5. 旅客運賃割引証が必要な場合には職員に申し出て下さい。(別な申込書があります)

旅客運賃割引証(学割証)使用目的の範囲

- (1) 休暇・所用による帰省
- (2) 実験実習並びに通信による教育を行う学校の面接授業及び試験などの正課の教育活動
- (3) 学校が認めた特別教育活動又は体育・文化に関する正課外の教育活動
- (4) 就職又は進学のための受験等
- (5) 学校が修学上適当と認めた見学又は行事への参加
- (6) 傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理
- (7) 保護者の旅行への随行

各 証 明 申 込 書

申請日： 年 月 日

| 必要数 | | | | | |
|-----|-----|-----|-------------|--------------|--------------|
| 種 類 | 在 学 | 成 績 | 卒 業 卒業 年 | 卒業見込 卒業 年 | 健 康 診 断 書 |

受取希望日： 年 月 日

釧路市立高等看護学院長 宛

| | | |
|---------------------------|-----|----------|
| 在 学 | 学 年 | 第 期 生 |
| 学籍番号 | | |
| フリガナ 氏 名 | | |
| S・H 年 月 日生 (才) | | |

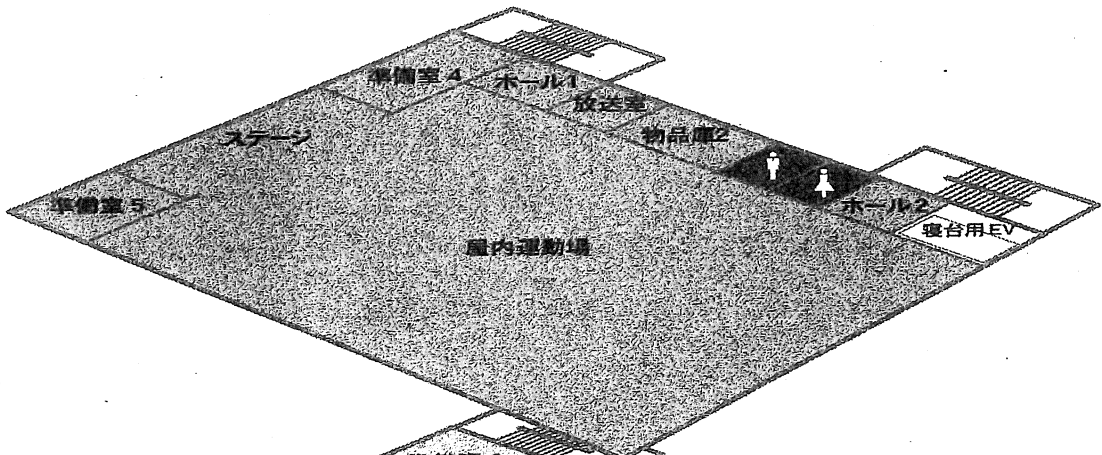
記

目的・理由

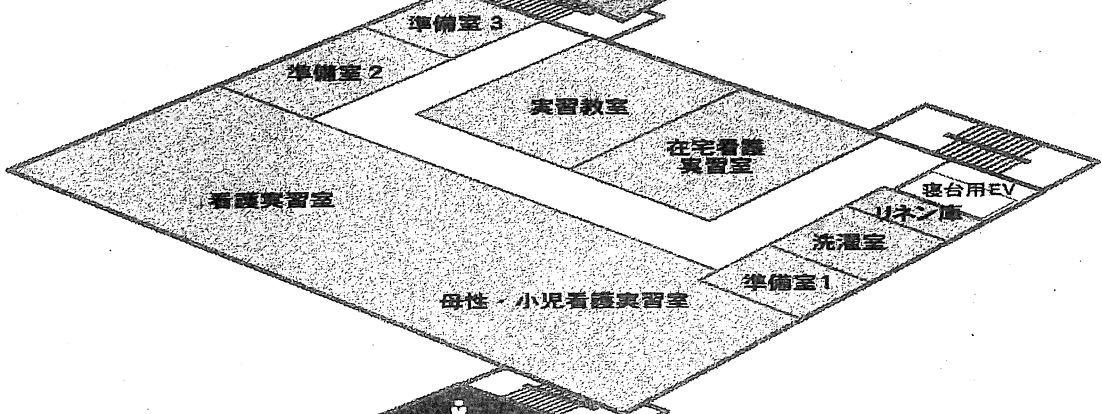
1. 健康保険扶養申請
2. 扶養家族申請
3. 修学資金申請
4. 受験
5. 進学
6. 就職
7. 国家試験
8. 国民年金免除申請
9. その他 ()

宛 先 (成績証明書送付のとき)

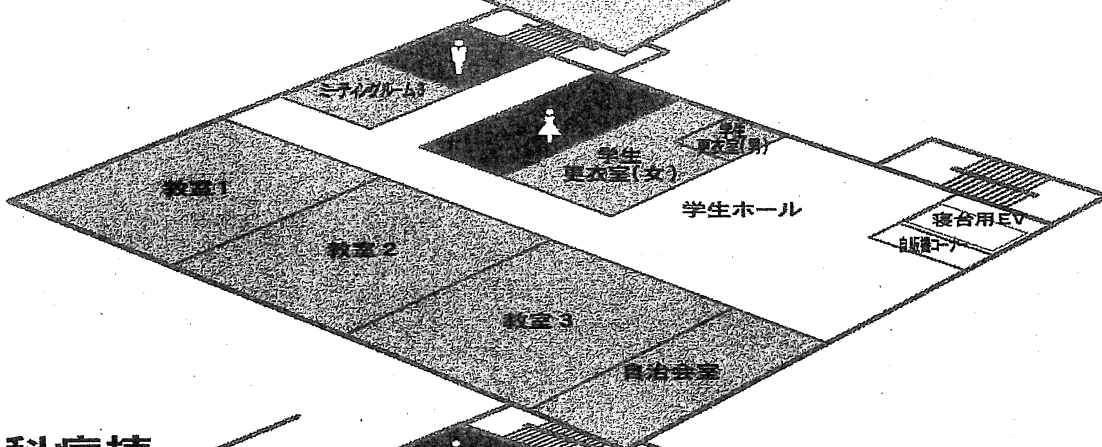
5F



4F

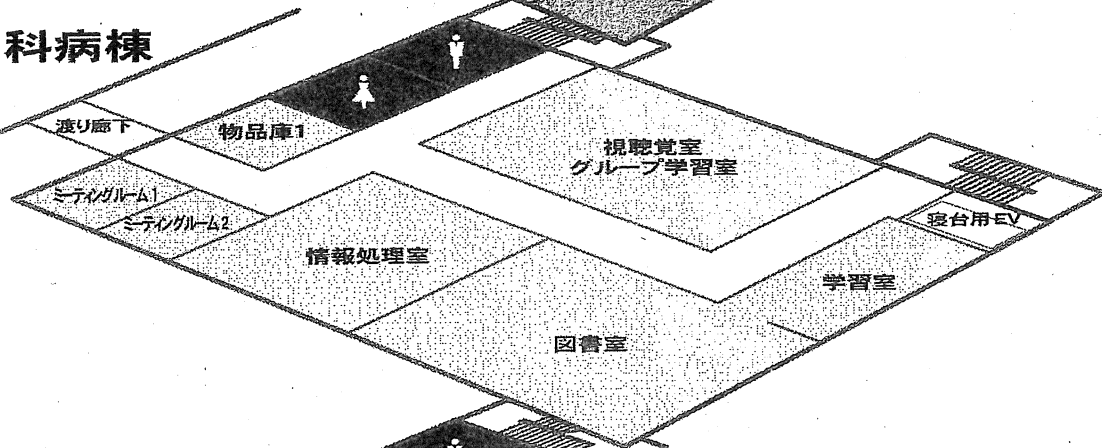


3F

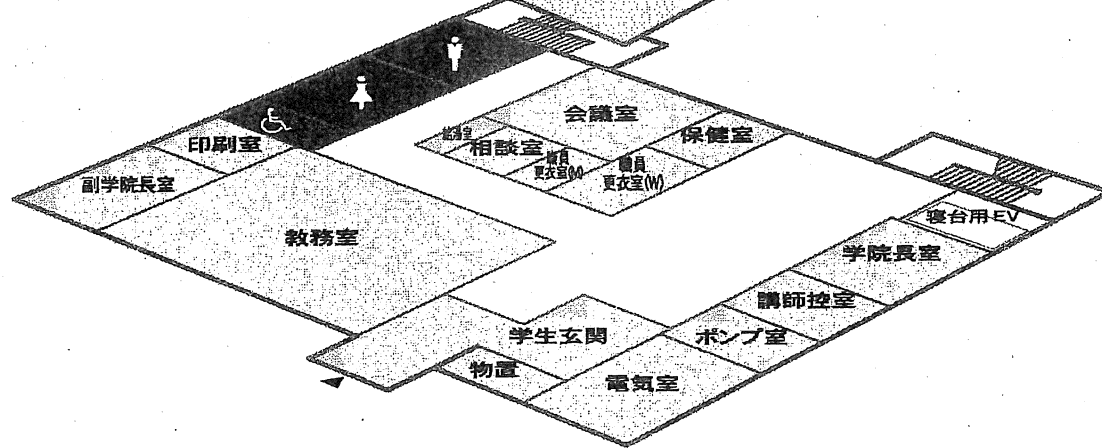


精神科病棟

2F



1F



釧路市立高等看護学院 フロア案内図